

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	市街地の適正な利用			総合計画コード	511
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(道路整備課)、市民環境部(産業振興課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	まちの限られた土地資源が有効に分配され、鉄道駅周辺など公共交通機関の利便性の高い地域を中心に市街地がまとまり、住宅系、商業・業務系、工業系のそれぞれの土地利用が適正に行われ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を行えるまちとなっている。				
施策概要	市街化区域において、住宅系利用では地域に応じた良好な住環境を維持し、秩序ある土地・建物の利用を図る。また、住宅地整備が進む旧暫定逆線引き地区では、都市農地を生かした良好な住環境の形成と区画道路の整備を進める。商業・業務系利用では、駅周辺の回遊性の創出の促進のほか、国道254号バイパス周辺や大規模跡地において、市全体もしくは地域の活性化に資する有効な土地利用を誘導する。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市景観計画		H 28 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の買収および基金からの繰戻しを実施した。 ・市道の改良工事を行った。 ・都市計画審議会および景観審議会を開催した。 ・商店街活性化の推進事業及び街路灯の維持管理に対し補助金を助成した。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	日常生活を安全安心に暮らしていくため、道路用地の買収、工事および街路灯の維持管理の行った。				
	子育てが しやすいまち	子どもたちがのびのび成長し、学び、遊べる良好な環境を整えるため、道路の改修や改良、また段差のない安全な通行ができた。				
	つながりのある 元気なまち	人々が交流を図れるよう、駅前広場でのアートマルシェやストリートライブ、また道路をステージに見立てた市民祭りの開催した。				
	自然・環境に 恵まれたまち	朝霞市みどりの基本計画に基づき、生産緑地の指定など将来を見据えた緑地やみどりの保全に努めた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		457,376	495,919	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 区画道路整備延長(整備延長m)(整備率) (説明) 旧暫定逆線引き地区の区画道路の整備済み延長と整備率	m (%)	574 (16)	891 (25)	1,208 (33)	1,525 (45)	1,845 (51)
		300 (8)	597 (17)	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備については、用地買収、工事とも予算に応じて実施したが、老朽化対策など他の整備箇所を優先する必要が生じたため、旧暫定逆線引き地区の区画道路の整備延長は目標に達しなかった。 ・基金で保有していた用地は予定どおり繰り戻しすることができた。 ・平成29年度に都市計画審議会に付議する予定であった案件はすべて議決となった。また、都市計画変更についても埼玉県及び関係機関と協議を行い、市民説明なども適切に実施した。 ・商店街の振興のため運営支援を行い活性化を図ることができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化区域、特に旧暫定逆線引き地区においては、引き続き良好な住環境の整備を図る必要がある。 ・市街地の開発が進んでおり、生産緑地の解除申請が増加傾向にある。 ・既存道路について、修繕や歩道の設置要望などが増加傾向にある。 ・商店街の活性化は、地域コミュニティの拡大と推進を図るうえでその必要性は非常に高い。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路及び都市計画道路とも、用地取得に係る地権者の理解や経費が必要となるため、優先順位を明確にして整備を進める必要がある。 ・計画の廃止や見直しについては、住民から意見を取り入れ、丁寧な説明と合意形成が必要である。 ・道路などの都市基盤の老朽化対策を計画的に進める必要がある。 ・道路整備の基本的な方針となる道路整備基本計画を、現状に応じて改訂する必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し							
	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に事業を進めるため、用地買収や工事箇所の優先度を検討し、少ない予算で大きな効果が出る工夫をする ・都市計画審議会については、これまでどおり予算の範囲内で開催する ・整備計画については慎重に内容検討し、市民からの要望と理解が得られる変更にする必要がある ・商店街を活動、支援することは、商店の維持活性とコミュニティの形成を図るうえで必要は非常に高い 							
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大							
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> ・市は、地域の実情に応じたまちづくりや市街地整備を進めるとともに、先進事例の調査やコスト削減に向けた工夫、また行政・商店のイベント情報の発信を行う。また、計画策定や工事等の実施にあたり、地域住民の意見を聴く機会を設け、地域住民と連携・調整を図る。 							
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費) H28決算 H29決算見込	有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性			
	1 道路用地取得事業 2 都市計画総務事業 3 道路改良事業 4 商店会支援事業 5	132,599 324,777 — — —	63,565 432,354 — — —	5 4 5 4 —	現状のまま 現状のまま 現状のまま 現状のまま —			
	計 (単位:千円)	457,376	495,919	—	—			
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載							
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地域における自然や緑地環境の確保のために、生産緑地の保全等に配慮してほしい。 ・景観については、市民の意識が高く様々な活動を行っている。引き続き、市民と協働しながら進めていってほしい。(「自然・環境がいきるまちへ」に関する所見より抜粋) 							
部長の意見	<p>本市は人口増加が続いていることから、市街化区域において適切な土地利用を図っていくためには、都市計画等のまちづくりに関する制度を適正に運用するとともに、都市基盤の整備に関する各種計画を的確に定め、着実に実行していく必要がある。また、既存の都市基盤の老朽化対策も計画的に進めていく必要がある。今後は、都市計画マスタープラン等に基づくまちづくり施策の実施状況を確認するとともに、未改訂の道路整備基本計画の改訂作業等を進める。さらに、旧暫定逆線引き地区の良好な住環境の整備について、一部で土地区画整理事業が施行されるなど新たな動きが生じており、効果的な取り組みについては市も支援していく。</p>							

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	市街地周辺の適正な利用(市街化調整区域の整序)			総合計画コード	512
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(みどり公園課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	市街地の周辺に指定されている市街化調整区域では、市街化を抑制し優良な農地や良好な自然的環境の維持と緑地保全することを基本とし、緑地・自然環境と調和した、地域特性に応じた適正な利用が図られている。				
施策概要	荒川近郊緑地保全区域などの大規模緑地は生態系の保全・再生のための重要な区域として引き続き保全を図る。また、黒目川沿いに立地する東洋大学やわくわくどーむなど公共的な施設の土地利用を維持するとともに、少子高齢化に対応するため、拠点的な病院の立地の推進や福祉施設の整備の促進を図る。基地跡地では平成27年12月に国へ提出した基地跡地利用計画に基づき、市民参加を図りながら具体的な土地利用の検討を進める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市景観計画		H 28 年度 ~ H 37 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画審議会および景観審議会を開催した。 緑化推進会議および生物多様性市民懇談会を開催した。 特別緑地保全地区等の維持管理と緑地管理ボランティアへの支援を行った。 埼玉県基地対策協議会、全国基地協議会及び全国防衛施設周辺整備協議会を通じて、国の関係機関等へ要望活動を実施した。 基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画[改訂版](案)の答申を受けた。 舗装修繕工事を実施した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	日常生活において不安を抱えることなく、安心して平穏に子どもを育てられ、また誰もが不自由に感じることなく行動できるまちづくりを進めた。			
	子育てが しやすいまち	自然や文化に接しながら子どもたちが心豊に成長できるよう、多くの自然が残る朝霞の森やシンボルロードの整備に向け関係者と調整を図った。			
	つながりのある 元気なまち	駅前広場や朝霞の森、また黒目川を中心に年間を通じて様々なイベントを行い、多くの市民の交流を図った。			
	自然・環境に 恵まれたまち	朝霞市みどりの基本計画に基づき、市街化調整区域の緑と水辺の保全に努めるとともに、基地跡地の緑を生かした公園・シンボルロード整備基本計画の見直し検討を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		30,333	64,951	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 市街化調整区域の適正な 利用の促進 (説明) 目標年度において実施されて いる具体的な土地利用の内容	—	—	—	—	—	東洋大学周辺の適 正な医療及び福祉 施設の土地利用
		—	—	—	—	—
② (説明)	—	—	—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画の見直しにあたり、専門家や関係機関からの意見を反映し、シンボルロード整備基本計画[改訂版](案)の答申を受けた。 ・保護地区及び保護樹木の追加指定が進んでおらず、また開発行為等により生産緑地の指定解除が多くなっている。また保護樹木については管理に手間がかかるため指定解除の希望が多い。 ・国への予算要望活動についてはこれまでどおり要望活動を行った。 ・東洋大学周辺に「TMGあさか医療センター」が開院した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・シンボルロードの第1期整備・供用に向けて、整備だけでなく整備後の利活用を含めた課題が判明してきており、対応が必要である。また、市民との協働により関心や意識を高めることができるために、取組を継続的に行っていく必要がある。 ・緑の保全、生態系の再生に対する要望が増加しており、市民参画の必要性が増加している。 ・樹林地や樹木の保全や維持管理には多額の費用がかかるため、所有者に任せることでなく市が保全に関与することが必要である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・市内に残された貴重な自然を有効に保全・活用するためには市民や事業者との連携・協働が重要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。 ・これから公園・広場のあり方を検討するためには市民や事業者との連携・協働が重要であり、意見交換会などの機会を確保していく必要がある。 ・保護地区及び保護樹木は市の緑の保全に必要なものであり、存続してもらうための対策が必要である。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域において、残された優良な農地や良好な自然環境をできる限り保全していくとともに、地域の特性に応じ、街と自然環境が調和した土地利用を図る。 																																																							
	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアを募集、育成、活用しながら市民意識を醸成し、自然の大切さと必要性を理解することで、緑や自然環境の保全、また公園の管理や運営を行っていく。 																																																							
行政と市民の役割分担	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">計 (単位:千円)</td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td colspan="6"><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</td></tr> </tbody> </table>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																																			
	H28決算	H29決算見込																																																						
1																																																								
2																																																								
3																																																								
4																																																								
5																																																								
計 (単位:千円)			—	—	—																																																			
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載																																																								
審議会等の第三者機関の評価(意見) <input type="checkbox"/> 【外部評価委員会】 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地域における自然や緑地環境の確保のために、生産緑地の保全等に配慮してほしい。 ・景観については、市民の意識が高く様々な活動を行っている。引き続き、市民と協働しながら進めていってほしい。(「自然・環境がいきるまち」に関する所見より抜粋) 																																																								
部長の意見 <p>市街化調整区域は、荒川近郊緑地保全区域や黒目川をはじめとする河川沿いの緑と水辺など優れた自然環境や優良な農地が残されており、これらをできる限り保全しながら、地域の状況に応じて、市街地と自然環境との調和を図りながら適切な土地利用が行われるようにしていく必要がある。このため、引き続き都市計画や開発に関する各種制度を適切に運用するとともに、シンボルロードの第1期整備及び供用後の運営管理について、市民・事業者の参加・協働を積極的に図りながら進めていく。また、保護地区、保護樹木について解除申請が増加しているため、継続してもらうための方策を検討する。</p>																																																								

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	市街地周辺の適正な利用(市街化調整区域の整序)			総合計画コード	512
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(みどり公園課、道路整備課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 都市計画総務事業		—	—	4	4	現状のまま
2 緑化推進事業		—	—	5	5	現状のまま
3 基地対策事業		2,654	2,307	4	4	現状のまま
4 基地跡地整備基金積立事業		582	1,834	4	4	現状のまま
5 基地跡地公園・シンボルロード整備事業		15,142	45,980	5	5	拡大
6 基地跡地暫定利用事業		11,955	14,830	5	5	現状のまま
7 道路施設修繕事業		—	—	5	5	現状のまま
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		30,333	64,951	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	やさしさに配慮した道づくり			総合計画コード	521
部名	都市建設部	主管課名	道路整備課	主管課部課コード	050400
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(まちづくり推進課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	歩道整備や道路改良等に加え、橋梁や舗装などの適切な維持管理を行うことにより、子どもや高齢者など誰もが安全に、安心して快適に道路を利用できるまちを目指す。				
施策概要	全ての人にやさしい交通環境の整備、環境及び景観に配慮した交通環境の整備及び歩行者空間の整備。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞都市計画マスターplan	計画期間	H 18 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市道路整備基本計画		H 3 年度 ~ H 37 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した道路の改良や用地取得ができた箇所の歩道整備を実施した。 内間木地区の浸水対策として水路の浚渫を実施した。 浸水対策として水路の清掃、排水機場の施設点検を適正に実施した。 夜間における安全対策として、道路照明灯を設置するとともに、修繕が必要な箇所について適切に対応した。 朝霞駅東口・南口駅前広場及び北朝霞駅東口駅前広場の清掃等により適切な維持管理を実施した。 街路樹等の選定、道路側溝の清掃・除草を適切に実施した。 駅周辺の放置自転車の撤去を実施した。 新入学児童への交通安全教育及び保育園児・幼稚園児を対象に交通ルールの指導を実施した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	段差の少ない歩道整備や幹線道路の整備、雨水の排水改善、道路・橋梁の老朽化対策を行った。			
	子育てが しやすいまち	歩道整備に当たり、子どもや保護者の目線に立ち、歩きやすい歩行空間とした。			
	つながりのある 元気なまち	歩道整備に当たり、高齢者及び障害のある人などが歩きやすいユニバーサルデザインとした。			
	自然・環境に 恵まれたまち	歩道整備に当たり、透水性舗装と雨水の循環に配慮した。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		217,945	205,657	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① (説明) 歩道整備延長(累計) 拡幅予定路線の歩道整備	m	76,470	76,650	76,830	77,010	77,190
		76,610	76,870	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<p>(説明)</p> <p>歩道の設置については、地権者の協力が得られた路線について設置することができた。また、雨水排水対策として有効な側溝及び集水枠の蓋を交換した。</p> <p>さらに、道路の長寿命化の基礎資料とするため、道路の路面下の空洞化及び路面の性状調査を実施した。</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	<p>(説明)</p> <p>歩行者が安全に、安心して通行できる道路環境を整備するため、引き続き歩行者の歩行空間の確保のための歩道設置、道路改良を行っていく必要がある。また、災害に強いまちづくりとして、集中豪雨時の雨水排水対策を下水道課と連携して実施し、浸水被害の抑制を図る必要がある。さらに、橋梁や舗装の老朽化対策を計画的に進めていく必要がある。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)</p> <p>歩道設置、道路改良を進めるための用地確保には地権者の協力が必要不可欠であるが、沿道の宅地化が進展しており、用地取得が困難な状況となっている。また、用地取得や落橋防止対策など橋梁、舗装の老朽化対策を進めるためには財政負担が膨大となるため、財政上の課題もある。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	<p>(説明)</p> <p>道路は連続的に整備することで効果がより発揮されることとなるため、今後も計画的に歩道整備、道路改良を実施する。特に、安全に、安心して通行できる歩行者空間を確保するために、危険箇所について優先的に整備を実施する。また、旧暫定逆線引き地区内の区画道路については、平成26年4月に策定した「旧暫定逆線引き地区の区画道路整備計画」に基づき整備を進める。なお、整備には地権者の協力が不可欠である上、経費と時間を要することから、ハード整備だけでなく、歩行者に配慮したソフト面の施策を地域とともに進めることも必要である。</p>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	<p>(説明)</p> <p>道路整備は道路管理者である行政の責務であり、地権者の協力を得ながら市が主体となって実施していく。また、歩行者などに配慮したソフト面での施策を行う際には、対象となる現場の状況に応じて地域の方々と施策の内容・方法等について連携・調整を図る。</p>					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性	優先性	H31に向けた投入資源の方向性
	H28決算	H29決算見込	貢献度	緊急性		
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
計 (単位:千円)				—	—	—
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部評価委員会】</p> <p>・道路整備については、開発行為などにおいて条例で指導する部分と事業者の努力義務としている部分があるが、まずは市が道路整備基本計画等に基づき、条例で歩行空間の確保等について定めることも必要である。また、歩道や公共施設の整備など、市が力を入れて取り組んでいるにも関わらず市民の評価は低い。市が実施している事業については、市が積極的に市民へ情報を伝え理解を促す必要もある。情報の伝え方についても、工夫する必要がある。(安全・安心なまちに関する所見より抜粋)</p>					
部長の意見	<p>市民から歩道がない、又は狭いことに対する不満の声が多く寄せられる本市においては特に重要な施策であり、自動車交通の円滑化とともに、誰もが安全に、安心して快適に通行できる歩行空間の確保が必要である。地権者のご理解を頂きながら、危険箇所や旧暫定逆線引き地区の道路など、緊急性・必要性の高い路線から着実に整備を推進する。また、地震や集中豪雨などによる被害を抑制するため、緊急輸送道路となる幹線道路の整備に加え、雨水排水の改善を下水道課と連携して着実に推進する。さらに、朝霞市橋梁長寿命化計画に基づき定期点検及び改修工事を実施するとともに、道路についても路面下空洞化調査及び路面性状調査結果に基づき、計画的に老朽化対策を進める。</p>					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	やさしさに配慮した道づくり			総合計画コード	521
部名	都市建設部	主管課名	道路整備課	主管課部課コード	050400
関連部課名	市長公室(政策企画課)、都市建設部(まちづくり推進課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 朝霞駅南口駅前通りアメニティーロード化事業	1,572	751	4	3	縮小	
2 オリンピック・パラリンピック事業	—	—	4	4	現状のまま	
3 道路改良事業	—	—	5	5	現状のまま	
4 歩道整備事業	18,924	12,501	5	5	現状のまま	
5 道路用地取得事業	—	—	5	5	現状のまま	
6 都市計画総務事業	—	—	5	5	現状のまま	
7 交通施策推進事業	—	—	4	4	拡大	
8 交通安全施設事業	—	—	4	4	拡大	
9 道路施設修繕事業	95,456	91,739	5	5	現状のまま	
10 駅前広場管理事業	29,111	30,852	5	5	現状のまま	
11 道路施設維持管理事業	22,361	24,621	5	5	現状のまま	
12 道路台帳整備事業	14,294	15,437	5	5	現状のまま	
13 交通安全啓発推進事業	15,133	12,955	5	5	現状のまま	
14 放置自転車対策事業	21,094	16,801	4	4	現状のまま	
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		217,945	205,657	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	まちの骨格となる道路づくり			総合計画コード	522
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	まちの骨格となる幹線道路網が整備され、本市と主要都市をつなぐ広域交通軸、市内の各地域をつなぐ地域交通軸の交通が円滑になり、人・物・情報の交流、隣接都市との連携強化や市街地の土地利用の促進が図られている。				
施策概要	国道254号バイパスなどの広域幹線道路の整備を関係機関に働きかけるとともに、重要度の高い都市計画道路観音通線などの都市内幹線道路の整備を推進する。その際、歩行者の安全性を確保するため、歩車道の分離などに努める。また、長期未整備都市計画道路について、社会情勢の変化や制度改正などを踏まえ、その必要性や構造の適正さについて検証を行い、一部廃止などの見直しを行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスターplan	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市道路整備基本計画		H 3 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 市道の改良工事・舗装改修工事・舗装修繕工事を行った。 街路用地の購入、建物移転補償、道路築造工事を行った。 埼玉県が施行する街路事業に負担金を負担した。 街路用地の維持管理を行った。 事業推進に向けた国への要望活動を行った。 歩道築造工事を行った。 都市計画審議会を開催した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	歩行者の安全確保に向け、歩道空間の確保や歩車道の分離、また道路整備を行った。			
	子育てが しやすいまち	交通安全対策として注意喚起の看板や路面表示、また痛んだ道路を補修し、歩道の整備を行った。			
	つながりのある 元気なまち	都市計画道路や生活道路の整備を行うことで、交通ネットワーク網が確立し市内外のひと・もの・仕事の交流が図れ、地域の活性化が推進できた。			
	自然・環境に 恵まれたまち	道路整備や交通安全対策を実施する際、樹木や緑地を保全し、また環境に配慮した材料や機材を利用した。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		473,321	540,956	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① (説明) 都市計画道路の整備率= 都市計画道路整備済み延長／都 市計画決定されている総延長	%	55	55	56	57	57
		47	53	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・国道254号バイパスの整備促進について、国、県への要望を行った。 ・都市計画道路の見直しについて、一部路線の廃止に関する都市計画決定を行った。 ・市道の改良、舗装改修および舗装修繕工事を行った。 ・歩道築造工事を行った。 ・埼玉県が整備する道路事業費の一部について負担金を交付した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備により、広域的な道路交通ネットワークの増強のほか、通学路や歩行者・自転車の通行空間の安全性の向上、既存道路の渋滞緩和等の効果が期待できる。 ・市道の改修、改良、歩道整備工事により、交通利便性の向上ほか、安全に、安心して通行できる空間の確保が図られることから、市民からの要望が高まっている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・道路整備を進めるための用地取得は、地権者の理解や多額の費用が必要となることから、時間を要する場合がある。そのため、整備の優先順位を定め、選択と集中により計画的に事業を進める必要がある。 ・道路整備を進める上で、市民要望、規模、時期、工期、費用などの要素が複雑に絡むことから、事業を計画的に進めながら、一方で臨機応変の対応が必要となることがある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・国道254号バイパスについては、早期の開通に向け、引き続き国や県に要望を行う。 ・都市計画道路観音通線については、通学路の安全確保、東京オリンピック・パラリンピック会場への経路確保などのため積極的に整備を進め、重点的にスケジュール管理を行う。 ・朝霞市道路整備基本計画については、現在の道路網の状況や交通施策などの実情をふまえた改訂の検討を進める。 																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) <ul style="list-style-type: none"> ・市が都市計画道路や市内幹線道路の整備を主体的に行う。また、道路整備にあたり、沿道の地権者の方々や地域住民の理解と合意形成を得るために機会を設けていく。 																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td><td></td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1																																																		
2																																																		
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)			—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部評価委員会】・道路整備については、開発行為などにおいて条例で指導する部分と事業者の努力義務としている部分があるが、まずは市が道路整備計画等に基づき、条例で歩行空間の確保等について定めることも必要である。「人にやさしいまちへ」に関する所見より抜粋)</p>																																																	
部長の意見	<p>都市計画道路及び幹線となる市道は、本市と周辺市区、あるいは市内の各地域間をつなぐ道路交通ネットワークを形成する重要な都市基盤であり、整備効果などをふまえ、計画的に整備を進めていく必要がある。また、自動車だけでなく、自転車や歩行者も安全に、安心して通行できる空間としていく必要がある。このため、都市計画道路については、観音通線をはじめ必要性の高い路線は積極的に整備を進めるとともに、長期未整備路線については今後も廃止や構造の見直しなどの検討を行っていく。また、市道についても道路整備基本計画の改訂作業を進め、道路改良や歩道整備を計画的に行うとともに、老朽化対策も計画的に進めていく。</p>																																																	

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	まちの骨格となる道路づくり			総合計画コード	522
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(道路整備課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 道路橋梁総務事務事業	11,908	11,321	4	4	現状のまま	
2 私道整備助成事業	3,005	2,127	5	5	現状のまま	
3 道路改良事業	47,761	42,155	5	5	現状のまま	
4 道路舗装事業	38,649	68,317	5	5	現状のまま	
5 緑ヶ丘通線整備事業	0	134,449	4	3	現状のまま	
6 観音通線整備事業	362,520	222,120	5	5	現状のまま	
7 駅西口富士見通線整備事業	376	24,568	3	3	H29で休止・廃止・終了	
8 駅東通線整備事業	6,753	3,742	4	3		
9 岡通線整備事業	1,039	30,991	4	3	現状のまま	
10 事業用地維持管理事業	520	751	3	3	現状のまま	
11 志木和光線整備事業	790	415	4	4	現状のまま	
12 道路施設修繕事業	—	—	5	5	現状のまま	
13 歩道整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
14 都市計画総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま	
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		473,321	540,956	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	良好な交通環境づくり			総合計画コード	523
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	道路に交通安全施設や歩道が整備されているとともに、自動車の速度抑制等の交通規制が適切に行われ、放置自転車がなく、子どもから高齢者までの誰もが安全、快適に道路を利用できるようになっている。また、市内のバス路線を多くの市民が快適に利用できるようになっている。				
施策概要	安全で快適な交通環境を確保するため、地域住民等の意向をふまえながら、地域の特性に応じた交通安全施設や歩道の整備、自動車の交通量や速度の抑制などの交通規制を行う。また、駅や路線バスの利便性向上や安全性確保について関係機関に要望するとともに、市内循環バスを引き続き運行し、運行見直し方針に基づき路線などの見直しを進める。さらに、駅周辺の歩行空間などを活用し、市民が利用しやすい自転車駐車場の整備に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスターplan	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市内循環バス「わくわく号」の運行見直し方針		H 27 年度 ~ H 30 年度	
		朝霞市橋梁長寿命化修繕計画		H 25 年度 ~ H 28 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁定期点検業務を行った。 ・交通事故の危険性の高い交差点等に緊急的な安全対策を実施し、カーブミラーや区画線等の設置など交通安全対策を行った。 ・私道整備について、1件の補助金交付を行った。 ・朝霞駅にホームドアを設置するため、鉄道事業者に事業費の一部を助成した。 ・市内循環バス「わくわく号」運行見直し方針に基づき、運行見直し並びに内間木地域での社会実験を実施した。 ・超低床ノンステップバス等導入促進補助金を交付した。 ・自転車駐車場の指定管理者を選定し、平成29年度から5年間の協定書を締結し、協議を行った。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	交通安全対策に向け警察や交通関係団体との協力において街頭活動を行い、また幼児期から安全教育を行うことで誰もが交通安全に意識啓発を心がけ交通事故を減らすことができた。			
	子育てが しやすいまち	自転車駐輪場においては3人乗り自転車の配置枠を広げた。市内各道路においてカーブミラー やクリーンベルト、ゾーン30の指定などを行い子育て世代に配慮を行った。			
	つながりのある 元気なまち	これまでどおり市内循環バスの運行を行なながら、H27年3月に策定した見直し方針に基づき、利用者の利便向上と公共交通空白地区の改善にむけ事業展開を行った。			
	自然・環境に 恵まれたまち	温室効果ガスの削減に向け、マイカー利用の抑制とアイドリングストップ、また環境啓発冊子の配布や自転車の利用促進について啓発活動を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		463,343	443,415	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 市内循環バス(コミュニティバス)年間利用者数 (説明) 市内循環バス(コミュニティバス)を1年間に利用した延べ人数	人	383,000	391,000	399,000	407,000	415,000
		400,273	391,000	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)
	<input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・自転車駐車場においては、多くの利用者が事故もなく安全に施設を使用することができた。 ・市内循環バスを安全に運行し、利用者数についても目標を達成できた。 ・路線バスに超低床ノンステップバスを2台導入できた。 ・カーブミラー等の交通安全対策について、市民要望も多い中、大きな遅延もなく要望に応えることができた。 ・橋梁の修繕について、橋梁長寿命化修繕計画に基づき北朝霞陸橋の改修工事を行った。
	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・自転車駐車場の利用については、引き続き利用者のニーズが多く、必要性は非常に高い。 ・市内循環バスについては、通勤通学の足として市民ニーズが定着している。 ・交通安全対策(信号機、カーブミラー、停止線など)に対する市民要望は多く、年々増加傾向にある。 ・駅および駅周辺のバリアフリー化の市民要望は多くあり、特に朝霞駅ではホームドアの設置、朝霞台駅では駅舎改修と合わせたホームドア、エレベーター等の整備が求められている。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> [複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																	
	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・自転車駐車場のキャンセル待ちの削減に向け、定期利用者の枠を増やす工夫や施設内のレイアウトの検討を行う。 ・市内循環バスについては、見直し方針に基づきルートの変更やバス停の移動、増設を行う。 ・交通安全対策(信号機、カーブミラー、停止線など)については、予算の範囲内で優先度に沿って実施する。 ・駅および駅周辺のバリアフリー化について、鉄道事業者に早期実施の要望を引き続き行うとともに、朝霞駅 																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																	
	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・市民の方々は地球温暖化対策や交通渋滞回避のため、自転車やバス等を積極的に利用し、不用な車の利用は控える。また、市はそのサポートに向け自転車駐車場の運用を見直すとともに、公共交通を誰もが利用しやすい環境にしていくため、事業者と連携しながらバリアフリー化の推進や啓発活動を行っていく。 																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td><td></td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1																																																		
2																																																		
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)			—	—	—																																													
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載																																																		
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部評価委員会】・朝霞台駅のエレベーターの設置については、鉄道会社へ要望するだけでなく、例えばエレベーターが設置されるまでの間、駅員を増やすなどして利用者の不便さに対応するなども含め要望してほしい。(「支え合う心で安全・安心なまちへ」に関する所見より抜粋)</p> <p>・歩道や公共施設の整備など市が実施している事業については積極的に情報を伝え理解を促す必要がある。(「人にやさしいまちへ」に関する所見より抜粋)</p>																																																	
部長の意見	<p>誰もが安全に、安心して移動できる環境を形成するうえで、道路の交通安全対策や公共交通機関のバリアフリー化などは重要な施策であることから、現地の状況に応じて、適切な対策を計画的に行っていく必要がある。このため、道路の交通安全対策や交通安全に関する市民への啓発活動、情報提供については、引き続き適切に行う。また、市内循環バスの運行見直し及び内間木線社会実験について効果と課題を的確に把握し、課題の改善に向けた検討を行うとともに、鉄道や路線バスの公共交通機関のバリアフリー化を推進する。特に、朝霞駅のホームドア設置への負担を行うとともに、朝霞台駅のバリアフリー化について、鉄道事業者に強く要望していく。</p>																																																	

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	良好な交通環境づくり			総合計画コード	523
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 花と緑のまちづくり事業	48,512	33,806	5	5	現状のまま	
2 橋梁改修事業	27,923	16,787	5	5	現状のまま	
3 交通安全施設事業	25,542	21,312	4	4	現状のまま	
4 道路安心・安全緊急改良事業	5,800	2,704	5	5	縮小	
5 道路橋梁総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま	
6 私道整備助成事業	—	—	5	5	現状のまま	
7 道路施設修繕事業	—	—	5	5	現状のまま	
8 道路改良事業	—	—	5	5	現状のまま	
9 歩道整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
10 都市計画総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま	
11 緑ヶ丘通線整備事業	—	—	4	3	現状のまま	
12 観音通線整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
13 駅西口富士見通線整備事業	—	—	3	3	H29で休止・廃止・終了	
14 駅東通線整備事業	—	—	4	3		
15 岡通線整備事業	—	—	4	3	現状のまま	
16 事業用地維持管理事業	—	—	3	3	現状のまま	
17 志木和光線整備事業	—	—	4	4	現状のまま	
18 交通安全啓発推進事業	—	—	5	5	H29で休止・廃止・終了	
19 道路整備基本計画見直し事業	—	—	4	4		
20 交通施策推進事業	865	4,101	4	4	拡大	
21 市内循環バス運営事業	75,925	97,620	4	4	現状のまま	
22 オリンピック・パラリンピック事業	—	—	5	5	現状のまま	
23 自転車駐車場管理運営事業	278,776	267,085	4	4	現状のまま	
24 地球温暖化対策推進事業	—	—	4	4	現状のまま	
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		463,343	443,415	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	まちの骨格となる緑づくり			総合計画コード	531
部名	都市建設部	主管課名	みどり公園課	主管課部課コード	050300
関連部課名	都市建設部(まちづくり推進課)、農業委員会事務局				

1. 施策概要

めざす 目的成果	子どもから高齢者までの幅広い世代が、都市における公園や緑のオープンスペースで自然とふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動などの活動を行っている。			
施策概要	武蔵野台地の崖線に残存する斜面林などを保護地区・保護樹木の指定やみどりのまちづくり基金の活用により緑地の保全及び緑化の推進に努める。市街化区域内において緑地機能及び多目的保留地機能の優れた農地は、生産緑地地区として保全に努める。位置や規模、目的に応じて街区公園などを計画・配置し、整備を推進する。			
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 18 年度～H 37 年度
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度～H 37 年度
		朝霞市景観計画		H 28 年度～H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	特別緑地保全地区等の維持管理を行った。 生産緑地地区の指定や解除、変更などの都市計画決定を行った。 公園及び児童遊園地の遊具等の定期点検を4回実施した。 公園長寿命化対策工事として、朝霞中央公園の園路舗装改修、公園灯改修及び遊具の更新を行った。 緑化推進会議を2回開催した。 景観審議会を2回開催した。 農業委員会総会を12回開催した。 緑化推進奨励金を交付した。				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	公園長寿命化対策工事として、老朽化した遊具等の更新工事を実施した。			
	子育てが しやすいまち	公園及び児童遊園地の維持管理を行った。 公園長寿命化対策工事として、老朽化した遊具等の更新工事を実施した。			
	つながりのある 元気なまち	市民ボランティア団体への支援を行った。			
	自然・環境に 恵まれたまち	特別緑地保全地区等の維持管理を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		386,835	386,107	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 市内全域における緑被面積の割合 (説明)5年度ごとに調査する緑被面積により市内全域の緑被面積の割合(平成25年度37.5%)	%	—	—	37	—	37
		—	—	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<p>(説明)</p> <p>市民ボランティア団体と協働しながら、特別緑地保全地区等の維持管理を行った。公園や児童遊園地の遊具等を適切に管理するなど、安全に利用していただけた。緑被率経年変化調査は、5年ごとに実施しており、次回は平成30年度に実施予定。</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	<p>(説明)</p> <p>良好な景観を形成する緑と水辺の連続性を高めていくために、街路樹、生け垣、河川等の緑と水辺によって、公園や樹林、農地等の拠点となる緑と水辺をつなぐエコロジカルネットワークを形成するとともに、市民が愛着と誇りを持てるまちなみをつくっていくため、街路樹をはじめとする公共の緑を適正に管理し、美しく育てていくことが必要である。また、民有地の樹木・樹林が、公共の緑と同様の割合を占めていることから、市民や事業者と協力して、みどりの量を増やすとともに、質についても充実させることが必要である。</p>

4. 今後の展開方針【部としての判断】

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	<p>(説明)</p> <p>良好な景観を形成する緑と水辺の連続性を高めていくために、街路樹を整備、育成・管理し、公園や樹林、農地等エコロジカルネットワークの拠点となる緑と水辺をつないでいく。また、それらのネットワークの間に位置する住宅地や商業地等の民有地において、花壇や生け垣の設置等により緑を充実させ、身近な緑と水辺のネットワークを創出する。</p>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	<p>(説明)</p> <p>緑豊かな環境を創出するうえで公共施設が先導的な役割を果たすために、市が管理する緑と水辺の適切な維持管理や公共施設の緑化を推進する。また、民有地にある緑と水辺については、開発事業等における緑化の指導を推進するとともに、花壇や生け垣の設置、保護地区や保護樹木への支援を行う。また、引き続き市民や事業者との連携、協働を図っていく。</p>					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)	有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
	1		H28決算	H29決算見込		
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)				—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【緑化推進会議】朝霞市みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想(第4期)に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。【景観審議会】朝霞市景観計画に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。【外部評価委員会】景観を良くするために無電柱化を進めてほしい。生産緑地の保全等に配慮してほしい。市民の持つノウハウや経験を活かし、公園の活用を協働で進めてほしい。市民の意見を幅広く集約し、環境や緑地等の保全・活用を推進してほしい。(自然・環境に恵まれたまちに関する所見より抜粋)</p>					
部長の意見	<p>平成28年3月に改訂したみどりの基本計画において、これからは緑の量だけでなく質も確保していくことを目指し、市民、事業者等と行政でみどりの魅力や価値を共有し、協働により地域全体でみどりを守り育み、緑と水辺の保全やエコロジカルネットワークの創出、公園の管理・運営など様々な施策を展開し、充実を図っていくこととした。本市では樹林地や農地の減少傾向に歯止めを掛けるため、みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想(第4期)に基づき施策を着実に実施するとともに、生産緑地地区の規模要件の300m²への引き下げに係る追加指定の手続きを着実に行う。また、生け垣の設置、保護地区等への支援を引き続き行うとともに、みどりのまちづくり基金を活用した支援の運用を開始し、市民、事業者等との連携、協働による取組を進めていく。市の景観計画に基づく施策も着実に実施していく。</p>					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	まちの骨格となる緑づくり			総合計画コード	531
部名	都市建設部	主管課名	みどり公園課	主管課部課コード	050300
関連部課名	都市建設部(まちづくり推進課)、農業委員会事務局				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 景観まちづくり推進事業	6,573	8,828	5	5	拡大	
2 緑化推進事業	31,792	32,466	5	5	現状のまま	
3 みどりのまちづくり基金積立事業	785	5,308	4	4	現状のまま	
4 都市計画総務事務事業	—	—	5	5	現状のまま	
5 生産緑地管理事業	6,569	3,861	5	5	現状のまま	
6 農業委員会運営事業	—	—	4	4	現状のまま	
7 公園管理事業	207,356	213,917	5	5	現状のまま	
8 公園施設改修事業	67,838	51,665	5	5	現状のまま	
9 (仮称)浜崎ふれあい公園新設事業	376	376	3	1	現状のまま	
10 街区公園整備事業	376	751	5	5	現状のまま	
11 児童遊園管理事業	57,885	61,178	5	5	現状のまま	
12 児童遊園改修事業	7,285	7,757	5	5	現状のまま	
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		386,835	386,107	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	うるおいのある生活環境づくり			総合計画コード	532
部名	都市建設部	主管課名	みどり公園課	主管課部課コード	050300
関連部課名	都市建設部(まちづくり推進課、道路管理課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	市内の緑地や河川で多様な生物を見ることができ、多くの市民が緑や水辺に親しんでいる。				
施策概要	市民に親しまれている黒目川について、遊歩道整備、周辺環境に調和した植樹などを市民と行政が一体となって推進する。公共施設における敷地内緑化及び、開発事業による緑化の推進に努めるとともに、湧水の保全・活用を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 18 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市景観計画		H 28 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	黒目川花まつりが開催される桜の開花時期にあわせ、提灯、灯篭、仮設トイレ等を設置した。市制50周年記念イベントとして、公園等の落ち葉を活用し「落ち葉で遊ぼうin朝霞の森」を開催した。緑化推進会議を2回開催した。生物多様性市民懇談会を開催した。				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	黒目川桜並木の管理を適切に行つた。			
	子育てが しやすいまち	朝霞の森において、落ち葉を利用したイベントを開催した。			
	つながりのある 元気なまち	市民ボランティア団体への支援を行つた。			
	自然・環境に 恵まれたまち	生物多様性市民懇談会を開催した。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		28,760	17,268	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 公園・緑地管理ボランティア団体数 (説明) 公園や緑地を管理する市民ボランティア団体数	団体	18	18	18	18	19
		20	20	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<p>(説明)</p> <p>宮戸ハケタ公園の公園管理を行なっていた市民ボランティア団体が会員の高齢化を理由に活動を停止したが、元会員の方が新しい団体の代表になり新たに届け出されたため、全体の団体数20団体に変更はなかった。</p> <p>(公園等管理ボランティア団体16団体、緑地管理ボランティア団体4団体)</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	<p>(説明)</p> <p>朝霞らしい魅力のある景観をつくり、守っていくために、黒目川の景観を保全するとともに、斜面林や水辺に親しむ場の創出をさらに進める必要がある。</p> <p>また、生物多様性の保全、景観形成の観点から緑地を適切に管理していくため、管理の担い手を育成し、技術を伝承していくことや、市民、事業者との連携、協働により、みどりを守り、育てる担い手を増やしていく必要がある。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																	
	<p>(説明)</p> <p>本市で保全されている緑と水辺の質を適切な管理により維持、向上していくため、市民、事業者と連携、協働して緑地管理等のボランティア活動を推進していくとともに、より多くの市民・事業者が参加できる機会を創出し、みどりを守り、育てる担い手を育てる。また、市民が緑と水辺に親しむことができる環境を引き続き確保していく。</p>																																																	
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																	
	<p>(説明)</p> <p>潤いのある生活環境づくりを進めるうえで公共施設が先導的な役割を果たすために、県と連携して黒目川等の河川の景観や環境を維持するとともに、市が管理する緑と水辺の適切な維持管理や公共施設の緑化を推進する。また、市民、事業者が行う植樹等の事業や樹林地の管理活動をはじめとする緑地保全、緑化推進、景観形成等を支援する。</p>																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 黒目川桜並木管理事業</td> <td>20,861</td> <td>9,074</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 花の植栽事業</td> <td>7,899</td> <td>8,194</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 都市計画総務事務事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4 緑化推進事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>28,760</td> <td>17,268</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 黒目川桜並木管理事業	20,861	9,074	5	5	現状のまま	2 花の植栽事業	7,899	8,194	5	3	現状のまま	3 都市計画総務事務事業	—	—	5	5	現状のまま	4 緑化推進事業	—	—	5	5	現状のまま	5						計 (単位:千円)	28,760	17,268	—	—	—	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載			
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)			有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																									
	H28決算	H29決算見込																																																
1 黒目川桜並木管理事業	20,861	9,074	5	5	現状のまま																																													
2 花の植栽事業	7,899	8,194	5	3	現状のまま																																													
3 都市計画総務事務事業	—	—	5	5	現状のまま																																													
4 緑化推進事業	—	—	5	5	現状のまま																																													
5																																																		
計 (単位:千円)	28,760	17,268	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【緑化推進会議】朝霞市みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想(第4期)に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。【景観審議会】朝霞市景観計画に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。【外部評価委員会】景観を良くするために無電柱化を進めてほしい。生産緑地の保全等に配慮してほしい。市民の持つノウハウや経験を活かし、公園の活用を協働で進めてほしい。市民の意見を幅広く集約し、環境や緑地等の保全・活用を推進してほしい。(自然・環境に恵まれたまちに関する所見より抜粋)</p>																																																	
部長の意見	<p>本市には、市民に親しまれている黒目川をはじめとする河川、台地の縁に残る斜面林、多くの湧水地など、豊かな緑や水辺が残されている。しかし、樹林地や農地の減少傾向は続いている、生物多様性の保全、良好な景観形成等の観点から、緑と水辺の量を確保するとともに、質を維持、向上させていくことが重要である。また、生活に潤いをもたらすためにも、市民が緑と水辺に親しめる環境を確保していく必要がある。このため、みどりの基本計画、花とみどりのまちづくり構想(第4期)及び景観計画に基づく施策を着実に実施していく。また、みどりを守り、育てる担い手となる市民、事業者等の裾野を広げていく方策を検討する。さらに、市民団体と連携しながら「朝霞生き物マップ」の更新作業を進めていく。</p>																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	まちの魅力を生み出す景観づくり			総合計画コード	533
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	朝霞らしい魅力ある景観をみんなでつくり、守ることで、誰もが住み続けたい、訪れたいと感じられるまちとなっている。			
施策概要	朝霞市景観計画に基づき、地域の特性を生かし、斜面林、黒目川などの自然や伝統的な行事が行われる社寺、文化財などの歴史的風土などを景観資源として保全・活用するとともに、鉄道駅や幹線道路周辺などの拠点的な区域においては、多くの人々が交流するにぎわいや活気を感じられる景観の創出に努める。			
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度～H 37 年度
		朝霞市景観計画		H 28 年度～H 37 年度
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度～H 37 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画審議会および景観審議会を開催した。 みどりのまちづくり基金について、募金活動の実施やPR活動を実施した。 建築基準法等に基づく審査、検査、許可等を実施した。 黒目川において、桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトにより整備された広場等の管理を行うとともに、健康遊具を整備した。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	市民・事業者・行政が協力し合いながら市の景観づくりに取組み、誇りと愛着の持てるまちづくりを行った。				
	子育てが しやすいまち	安全で安心な道路を作り、子育てに適した公園や自然環境を保全・提供することができた。				
	つながりのある 元気なまち	公園や河川、また駅周辺において、人々が集い賑わいのある場所やイベントを提供することができた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	河川や里山などの自然環境を守り、また武蔵野の面影を残す緑地を残し、四季の変化や郷土の特色を提供することができた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		0	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 景観の満足度 (説明)市民意識調査の結果報告書の景観の満足度(満足している、まあ満足しているの合計割合) ※5年に一度、調査を実施予定	%	—	—	—	—	40.0
		—	—	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) ・景観づくりに取り組む市民等の支援に向けた景観づくり団体の認定、景観重要建造物、樹木の指定について、審議会で募集方法についての意見を聞き、周知及び公募の手続きを行う準備ができた。 ・黒目川花まつりは市民に定着したイベントとなり、また黒目川まるごと再生プロジェクトにより整備された広場等の管理について、県、市、市民団体、自治会の連携により適切に行われている。 ・みどりのまちづくり基金については、ふるさと納税が多く、寄付金・募金額が目標を達成した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) ・朝霞ならではの魅力ある景観を形成し、住みたい、住み続けたいまちとしていくため、景観計画に位置づけられた施策を着実に実施するとともに、景観審議会や市民との意見交換会を継続的に実施する必要がある。 ・朝霞ならではの景観を形成する黒目川桜まつりや彩夏祭などの年中行事はすでに市民に定着しており、多くの方が毎年楽しみにしているため、継続していく必要がある。 ・特別緑地保全地区等の緑地の管理を市民団体が行っており、自然環境に対する市民ニーズは高まっている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・景観まちづくりは、地域の実状に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠であり、市民・事業者・行政が連携、協働して取り組んでいく必要がある。 ・良好な景観を形成していくには長い時間を要するため、景観計画の内容を広く周知し理解を求めていく必要がある。

4. 今後の展開方針【部としての判断】

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) ・景観計画に位置づけられた施策の推進に向けて、市民への周知啓発を図るとともに、景観審議会や市民意見交換会を継続的に開催する。また、市民・事業者・行政の連携、協働を進めるための取組を検討する。 ・朝霞ならではの景観を形成する年中行事を引き続き実施していく。 ・黒目川桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトで整備された広場等の管理を適切に行う。					
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 景観まちづくりは、地域の実状に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠である。市民・事業者・行政が協働で取組む必要がある。また良好な景観を形成するには長い時間を要するため、景観計画の内容を広く周知し理解を求めていく必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)	有効性	優先性	H31に向けた投入資源の方向性
			H28決算	H29決算見込	貢献度	緊急性
	1 都市計画総務事業		—	—	4	3
	2 景観まちづくり推進事業		—	—	5	4
	3 みどりのまちづくり基金積立事業		—	—	4	4
	4 建築行政事業		—	—	4	4
	5 黒目川桜並木管理事業		—	—	5	5
審議会等の第三者機関の評価(意見)	計 (単位:千円)					
	0					
部長の意見	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
	【外部評価委員会】・景観については、市民の関心が高く様々な活動を行っているので、引き続き、市民と協働しながら進めていってほしい。 ・景観を良くするため、市内の無電柱化について、できるところから進めていってほしい。(「自然・環境がいきるまちへ」に関する所見より抜粋)					

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり			総合計画コード	534
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課、下水道課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	自然との共生や地球環境への負荷を軽減する観点から、全ての人や生き物にやさしく、環境面への配慮が行き届いたまちとなっている。					
施策概要	環境共生住宅や省エネルギー住宅などの整備の検討や、環境への負荷の少ない自然再生エネルギーの積極的な活用など循環型社会の構築に向けた検討を図る。また、健全な水循環の維持や再構築のため、500m ² を超える開発事業について雨水の浸透又は貯留施設の設置を指導し、また住宅の新築、建て替えにおいても浸透ますの設置を依頼し、雨水の流出抑制に努める。					
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン		計画期間	H 16 年度～H 37 年度	
					H 年度～H 年度	
					H 年度～H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 水路等清掃による維持管理を行った。 住宅用太陽光発電システム設置に対して補助金の交付を実施した。 市役所に電気自動車充電器を設置し、利用者に有料開放を実施した。 アイドリングストップや温室ガスに対する排出抑制の啓発活動を実施した。 雨水貯留槽設置に対して補助金の交付を実施した。 管渠・マンホール・ポンプ場など下水道施設の点検や修繕を実施した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	雨水災害対策に向け、関連施設の修繕やメンテナンスの実施、また安全・安心で環境に配慮したクリーンエネルギーの利用を実施した。			
	子育てが しやすいまち	自然環境と都市空間の調和を保ちながら、こどもの生育・成長に適した環境とサービスを提供した。			
	つながりのある 元気なまち	環境教育・環境学習を介して、市、市民(市民団体)、事業者とがパートナーシップを構築することで、人と人とのネットワークとコミュニティを形成することができた。			
	自然・環境に 恵まれたまち	自然環境の保全と循環型社会を継続するため、緑地の確保や河川の整備、また公共施設に太陽光発電や屋上緑化などの設置を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		3,162	2,370	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① (説明) 雨水流出抑制施設設置割合 開発事業件数に対する雨水流出抑制施設の設置割合	%	100	100	100	100	100
		100	—	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点)<input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)</p> <p><input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点)<input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)</p> <p><input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水抑制対策に向け、浸透トレーニングや雨水貯留槽の設置し、また水路清掃を行うなど適切な管理を行った。 ・温暖化対策として、市が率先して市内公共施設において温室効果ガスの排出抑制を行った。 ・仲町中継ポンプ場や排水機場などについて、設備修繕や運転管理、保守点検業務を適切に実施したことにより、重大な事故を起こすことなく、安全で快適な生活環境を保つことができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある<input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある</p> <p><input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある<input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある</p> <p><input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水路清掃は雨水排出先の確保のための基本的な管理事項であり必要性は高い。 ・市民の命と財産、安心と安全を守るために、雨水流出抑制対策の必要性は高い。 ・公共下水道の維持管理は、市民生活を営むうえで、環境面と衛生面の両方からとても重要である。 ・地球規模で取り組んでいる温暖化対策は、微力ながら時間をかけ継続して進める必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水路への不法投棄が多いため、清掃だけに限らず、巡回や点検を日頃から実施する必要がある。 ・雨水流出抑制対策を進める際、開発行為に該当しない小規模な物件についても設置を促す必要がある。 ・公共下水道の老朽化が進んでいることから、耐震化や布設替え工事には事業の平準化を図る必要がある。 ・温暖化対策は個人のモラルに頼るところが多くあるため、個人に対する意識啓発を行う必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<p>[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道の老朽化対策を計画的に進めるため、下水道ストックマネジメント基本計画の策定を行う。 ・下水道事業の公営企業会計への移行を進める。 ・雨水流出抑制対策については、あらゆる機会を通じて雨水貯留槽や浸透トレーニングの設置を事業者等に促す。 ・循環型社会の構築を目指すため温暖化対策(太陽光発電設置費補助、電気自動車充電器無料利用、各種啓発活動)については引き続き継続する。 																																												
行政と市民の役割分担	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は循環型社会の構築と雨水流出抑制の必要性について啓発活動と購入費の助成を行う。市民は、普段の生活商品の購入の際、環境にやさしい商品の購入や雨水対策について、できる限りの対応を図る。 																																												
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 水路管理事業</td> <td>3,162</td> <td>2,370</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 再生可能エネルギー普及推進事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 都市計画総務事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4 地球温暖化対策推進事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>5 下水道維持管理事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>3,162</td> <td>2,370</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 水路管理事業	3,162	2,370	5	5	現状のまま	2 再生可能エネルギー普及推進事業	—	—	4	4	現状のまま	3 都市計画総務事業	—	—	4	4	現状のまま	4 地球温暖化対策推進事業	—	—	4	4	現状のまま	5 下水道維持管理事業	—	—	5	5	現状のまま	計 (単位:千円)	3,162	2,370	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																					
	H28決算	H29決算見込																																											
1 水路管理事業	3,162	2,370	5	5	現状のまま																																								
2 再生可能エネルギー普及推進事業	—	—	4	4	現状のまま																																								
3 都市計画総務事業	—	—	4	4	現状のまま																																								
4 地球温暖化対策推進事業	—	—	4	4	現状のまま																																								
5 下水道維持管理事業	—	—	5	5	現状のまま																																								
計 (単位:千円)	3,162	2,370	—	—	—																																								
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部検討委員会】・公共施設の整備など市が実施している事業については積極的に情報を伝え理解を促す必要がある。「人にやさしいまちへ」に関する所見より抜粋)</p>																																												
部長の意見	<p>環境問題は、世界規模のものから身近なものまで様々なものがあるが、特に雨水の循環については、市内で浸水被害が生じていることから、下水道の整備等の基盤整備と並行して、市民や事業者の協力による雨水流出抑制対策を促進していく必要があるため、市民、事業者への雨水流出抑制対策に関する啓発や雨水貯留設備への補助を引き続き行う。また、低炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの利用推進やアイドリングストップ等について、市民、事業者への啓発や補助を行う。</p>																																												

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	特性に応じた市街地づくり			総合計画コード	541
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	適正な宅地利用がなされ、防災、健康、衛生環境面などに配慮した、バランスのとれた住環境のあるまちが形成されている。				
施策概要	現在施行中の根岸台五丁目土地区画整理事業を推進するとともに、土地区画整理事業の完了地区において良好な居住環境を維持する。また、地域にふさわしいまちづくりに向けて、良好な住環境を形成するため住民が主体的にまちづくりのルールを設定できる地区計画や建築協定等の制度の周知・啓発や、民間と連携した商業地のにぎわい創出、良好な市街地の形成に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市景観計画		H 28 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 根岸台五丁目土地区画整理事業の推進を図るため補助金を交付した。 都市計画審議会を開催した。 道路や側溝の清掃、また違反広告物の撤去や除雪を行った。 都市計画法第29条等に基づく届出、審査、許認可、確認、証明書の交付および検査を行った。 市道の改良工事を行った。 朝霞市景観条例の規定に基づく届出の受理、指導を行った。 新設街区公園の整備について検討を行い、公園用地の確保に向けて調整を行った。 建築基準法等に基づく相談、審査、許認可、現場確認等を行った。 				
H29年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	土地区画整理事業や開発行為等により公共施設やインフラが整備され、良好な市街地が形成された。			
	子育てがしやすいまち	道路や歩道、公園が整備され、歩行者の安全確保と人が集まる空間が確保できた。			
	つながりのある元気なまち	建築物を建築する際、住民同士のルールづくりや建物の高さ制限を設けることで、一体感のある調和した街並みが形成できた。			
	自然・環境に恵まれたまち	一定規模の開発行為等により、緑地や公園を配置し景観まちづくりを推進することができた。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		83,693	90,748	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 根岸台五丁目土地区画整理事業整備進捗率 (説明) 同区画整理事業における事業費ベースの整備進捗率	%	95	98	100	100	100
		94	94	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・根岸台五丁目土地区画整理事業地内において、廃止となった都市計画道路跡地の一部を保留地に変更して保留地処分を行った。 ・開発手続条例、屋外広告物条例等に基づく手続きにより、開発事業や屋外広告物についての規制、誘導等を図った。 ・良好な景観形成についての意見交換を開催し、市民意識の醸成等を図った。 ・都市計画法第29条に基づき、許可および完了検査を行った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・根岸台五丁目土地区画整理事業は、平成30年度末の事業完了を目指し、換地計画、精算金等の手続きを着実に行う必要がある。 ・市内には、都市基盤が不十分な地域や狭小での土地利用がなされている地域があり、土地区画整理事業の実施により都市基盤整備を実施する需要がある。 ・市民・事業者・市が一体となって、景観づくりの方向性を共有しながら連携・協働して取り組む必要性は非常に高い。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・根岸台五丁目土地区画整理事業については、事業完了に向けて様々な手続きが生じるため、事業主体である組合と連携して進める必要がある。 ・新規の土地区画整理事業については、地権者や権利者などの理解を十分に得て事業化する必要がある。 ・開発手続条例については、社会情勢の変化をふまえ、必要に応じて適切な時期に改正等の対応を検討する必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																												
	(説明) ・区画整理事業の推進および事業完了に向け、組合との協議や助言、補助金を交付し、あわせて県との協議を行う。 ・都市計画法や建築基準法等の関係法令に基づく、審査、許認可、指導、相談などを行う。 ・良好な住環境の整備に向け分譲マンション管理相談窓口の開催や地区計画、建築協定など引き続き啓発活動を行う。 ・景観まちづくりを推進するため、引き続き市民との意見交換会を開催し、合わせて景観審議会を開催する。																																												
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																												
	(説明) ・行政は土地区画整理事業、開発行為、景観などのまちづくりに関する様々な手法について適正な手続きと啓発活動を行う。また、市民、事業者と市の連携、協働により、市内全域および地域の特性に応じたまちづくりを進める。																																												
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																					
	H28決算	H29決算見込																																											
1																																													
2																																													
3																																													
4																																													
5																																													
計 (単位:千円)			—	—	—																																								
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】・環境や緑地等の保全・活用については、市民との協働による活動のほか、市民の意見を幅広く集約して推進してほしい。(「自然・環境がいきるまち」に関する所見より抜粋)																																												
部長の意見	地域の特性に応じた市街地の形成にあたっては、土地区画整理事業等の事業、開発手続条例などの法令による規制・誘導、各種計画に基づく施策の推進、市民や事業者と市の連携、協働による協定、地区計画制度等の活用など、様々なまちづくりに係る制度を活用し、総合的に進めていく必要がある。このため、各種制度の適正な運用を行うとともに、市民、事業者に対して周知啓発を図る。また、社会情勢の変化に応じて、必要があれば制度の改正等も含めた検討を行う。さらに、根岸台五丁目土地区画整理事業については、計画に基づき着実に事業を進捗するよう事業主体である組合とよく連携し、平成30年度の事業完了を目指す。																																												

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	特性に応じた市街地づくり			総合計画コード	541
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 根岸台五丁目土地区画整理推進事業	25,259	39,010	5	5	現状のまま	
2 都市計画総務事業	—	—	4	4	現状のまま	
3 道路施設維持管理事業	—	—	5	5	現状のまま	
4 開発許可等指導事業	37,390	28,848	4	4	現状のまま	
5 道路改良事業	—	—	5	5	現状のまま	
6 景観まちづくり推進事業	—	—	4	4	現状のまま	
7 街区公園整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
8 建築行政事業	21,044	22,890	4	4	現状のまま	
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		83,693	90,748	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	上水道の整備・充実			総合計画コード	542
部名	水道部	主管課名	水道施設課	主管課部課コード	180200
関連部課名	水道部(水道経営課)、都市建設部(まちづくり推進課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	水道事業の経営が安定し、適正な水道料金で安全・安心な水が安定的に供給され、また、水道施設の耐震化を計画的に進めることにより、災害に強い水道施設になっている。				
施策概要	施設の整備・充実を図るとともに、老朽施設の計画的な更新及び耐震化を図り、安全・安心な水の安定供給に努める。また、限られた資源である水を有効に使用するための節水意識の啓発を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市水道事業財政収支計画	計画期間	H 28 年度 ~ H 30 年度	
		朝霞市水道事業耐震化計画		H 24 年度 ~ H 43 年度	
		朝霞市水道事業基本計画		H 24 年度 ~ H 83 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 私道老朽管(石綿セメント管)及び私道給水管布設替整備費補助金を各1件支出した。(合計工事延長94.0メートル) 給水装置の設計審査1,680件、工事検査1,700件を行った。 水圧不足を改善するため、7路線・430.0メートルを、老朽管布設替えとして、6件・1429.7メートルの布設替等工事を行った。 水道事業耐震化計画に基づき、基幹管路の耐震化として7件・1041.0メートルの工事を行った。 泉水及び岡浄水場の配水ポンプ制御設備更新事業が完了、新たに岡浄水場の中央監視制御装置設備更新工事に着手した。 上水道台帳の更新補正を1,280件・5.8キロメートル行ったほか、漏水調査により133箇所の漏水を発見し修繕を行った。 検定満期を迎える水道メーター8,593個を交換したほか、浄水場の運転管理及び水道水等の水質検査を実施した。 中長期計画として、経営戦略を策定した。 水道料金等の検針、調定、収納及び未納対策を行った。 応急給水訓練の実施とともに必要な機材を購入した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	水道事業耐震化計画に基づき、水道施設の耐震化を図った。 漏水調査を実施し、漏水箇所の発見に努めるとともに漏水箇所の修繕を行った。			
	子育てが しやすいまち	いつでも安心して水道を利用できるよう、浄水場の維持管理や漏水・水道等に関するトラブルに対し、24時間365日対応できる体制を整えている。			
	つながりのある 元気なまち	地域防災訓練を通して、町内会や危機管理部門と連携し、応急給水訓練を実施した。			
	自然・環境に 恵まれたまち	県水の水圧により小水力発電システムで発電し、その電力を売却した。水源の一部として、地下水を活用している。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		1,983,864	2,123,462	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 基幹管路耐震化率 (説明) 基幹管路延長に占める耐震適合管路延長の割合	%	43	45	48	52	60
		42	45	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<p>(説明)</p> <p>平成29年度末における基幹管路の耐震化率は、45.0%となっており、計画どおりの達成率となっていることから、順調に成果は上がっている。なお、取水井(深井戸)と各浄水場を結ぶ導水管の耐震化については、平成28年度末をもって100%となり耐震化は完了した。</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心、安全な水道水を安定的に供給することは、水道事業者の責務である。 水道は電気、ガス、交通、通信等と共に、市民生活や社会経済活動を支える、重要なライフラインとなっている。そのため、地震等の非常事態において、生命の維持や生活に必要な水を安定して供給することや被災した場合でも速やかに復旧できる体制の確保が求められている。
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 給水人口は増加しているが、総給水量が横ばいのため、営業収益の増加が見込めない中、水道施設の耐震化や浄水場設備等の更新事業など、多額な費用を要する事業があり、財政負担が課題である。 急激な宅地化により布設された大量の水道管が、耐用年数の40年を経過する更新年代に入り、老朽管の割合が増加傾向のため計画的な対応が必要である。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> [複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																												
	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化計画を包括した「朝霞市水道事業基本計画」に基づき、水道施設の耐震化や浄水場の統廃合・各種設備更新を行う。 有収率向上のため、引き続き漏水調査を行い、漏水箇所の早期発見・早期修繕に努める。 将来的には給水人口が減少し、料金収入も減少することが予想されることを踏まえ、収入・支出の両面から水道事業経営に見直す必要性がないか継続的に検討する。 																																												
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																												
	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上水道配水管は行政が主体となって整備を行うが、未整備路線や宅地開発等では必要に応じて事業者等が整備をする場合があるため、その際は行政と事業者等との協議が必要となる。 水道施設の耐震化や漏水修繕、濁り水発生時などは、地域の方々の理解と協力が必要である。 水道事業の健全経営を図る上で、今後も水道利用者の意見等の把握に努め、経営に生かしていく必要がある。 																																												
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td><td></td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																					
	H28決算	H29決算見込																																											
1																																													
2																																													
3																																													
4																																													
5																																													
計 (単位:千円)			—	—	—																																								
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>朝霞市水道審議会 12名 【市議会議員3名、水道使用者(市民)7名、知識経験を有する者 2名】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担の公平性の観点から、水道料金の未納対策を粘り強く行ってほしい。 水道事業は将来にわたる事業なので計画的に運営し、それを市民にも可視化できるような工夫をしてほしい。 																																												
部長の意見	<ul style="list-style-type: none"> 現在の経営状況は、事業収益が増加しない中、支出については基幹管路耐震化の推進や浄水場の設備更新事業など、多額の費用を必要とする事業が続くことから、厳しい経営状況にある。持続可能な水道事業経営を行うためには、財源の安定的な確保が不可欠であることから、平成29年度に策定した経営戦略を指針に、引き続き安定的かつ効率的な事業運営に努めていく。 高度経済成長期に整備された大量の水道管が更新年代を迎えるため、計画的に更新事業を進めること。 																																												

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	上水道の整備・充実			総合計画コード	542
部名	水道部	主管課名	水道施設課	主管課部課コード	180200
関連部課名	水道部(水道経営課)、都市建設部(まちづくり推進課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 私道給水管布設替整備費補助事業	1,503	3,296	3	3	現状のまま	
2 私道老朽管布設替整備費補助事業	13,251	8,650	3	3	現状のまま	
3 導水管・配水管・給水管・消火栓維持管理事業	107,313	80,758	3	3	現状のまま	
4 貯蔵品及び水道メーター定期交換維持管理事業	53,891	66,206	3	3	現状のまま	
5 漏水調査事業	16,552	15,544	4	4	現状のまま	
6 净水場維持管理事業	899,587	912,690	4	4	現状のまま	
7 給水審査事務事業	20,589	22,060	3	3	現状のまま	
8 水道管水圧不足改善事業	49,478	53,517	4	3	現状のまま	
9 水道施設耐震化事業	276,566	209,518	5	4	現状のまま	
10 老朽管更新事業	239,167	137,974	3	3	現状のまま	
11 净水場施設等更新事業	120,258	423,262	5	5	現状のまま	
12 水道事業健全運営事業	37,986	46,690	4	4	現状のまま	
13 水道庁舎維持管理事業	12,442	12,862	3	3	現状のまま	
14 水道料金収納検針事業	133,375	128,354	4	4	現状のまま	
15 応急給水施設資機材拡充事業	1,906	2,081	3	3	現状のまま	
16 都市計画総務事業	—	—	3	3	現状のまま	
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		1,983,864	2,123,462	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	公共下水道の整備			総合計画コード	543
部名	都市建設部	主管課名	下水道課	主管課部課コード	050500
関連部課名	市民環境部(環境推進課)、都市建設部(まちづくり推進課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	汚水管を整備することにより、トイレの水洗化や公共用水域の水質が保全され、清潔で快適な環境づくりが推進されている。 雨水管の整備や雨水の流出を抑制することなどにより、豪雨時においても浸水被害が少ないまちとなっている。					
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既暫定逆線引き地区の公共下水道(汚水管)の整備 ・下水道未接続世帯の水洗化の促進 ・浸水しやすい箇所の改善対策工事等の検討、実施 ・雨水流出抑制施設の設置に関する指導 ・下水道施設の適切な維持管理 					
個別計画 関連計画	計画名称			計画期間	H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・汚水本管工事 工事延長 155.0m ・私道排水設備工事補助事業 1件 ・既設下水道管の維持管理 マンホール蓋交換数:84箇所 ・雨水本管工事 工事延長 81.5m ・既設下水道施設、ポンプ場、排水機場の維持管理 ・開発事業等における指導検査件数:37件 (流出抑制施設設置状況 浸透トレーン:1279.0m³ 浸透弁:79.5m³ 貯留槽:1,133.3m³) ・雨水管理総合計画の策定(平成29~30年度の2か年) ・下水道ストックマネジメント基本計画の策定(平成29~30年度の継続事業) ・公営企業会計移行への準備(平成29~31年度の継続事業) 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	雨水下水道の整備により、集中豪雨による浸水被害の軽減を図りました。			
	子育てが しやすいまち	水洗化を促すことにより、衛生的な生活環境の改善を図りました。			
	つながりのある 元気なまち	私道の排水設備を住民の方々の協力により行いました。			
	自然・環境に 恵まれたまち	公共下水道の整備により、環境保全を図りました。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		1,509,564	1,555,873	—	—
					H32年度

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 汚水管整備率 (説明) 事業認可区域面積に対する整備済面積の割合	%	96.2	96.2	96.3	96.3	96.3
		96.5	96.5	—	—	—
② 雨水管整備率 (説明) 事業認可区域面積に対する整備済面積の割合	%	93.7	93.9	93.9	94.0	94.0
		93.7	93.9	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 汚水管整備、雨水管整備共に、概ね計画通りに進んでいる。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・公衆衛生の向上、生活環境の改善のため、引き続き汚水管整備等を実施する必要がある。 ・局地的かつ短時間での豪雨が頻発する傾向にあり、低地部分における内水被害が発生していることから、今後も引き続き雨水浸水対策を行う必要がある。 ・安全で快適な生活環境を確保していくために、下水道施設の適切な維持管理や耐震化対策を行う必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・汚水管整備については、整備に必要な路線の幅員が狭いなどの要因から、道路拡幅に併せて工事を実施していく必要があり、今後の進捗は緩やかになることが想定される。 ・雨水管整備(雨水浸水対策)については、平成29年度から検討を進めている「雨水管理総合計画」において、計画降雨を上回る豪雨への対策が必要な地域への最善策を検討していく必要である。 ・国から下水道事業について、遅くとも平成32年度予算から公営企業会計へ移行するよう求められている。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> [複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																							
	(説明) ・旧暫定逆線引き地区の市街化区域編入に伴う公共下水道の整備を引き続き行っていく。 ・局地的な豪雨等による浸水被害の発生を抑制するための対策を推進する。 ・開発等において緑地の保全等による雨水の浸透や雨水流出対策を進めていく。 ・老朽化が進む下水道施設の計画的な維持管理・修繕及び改築に関する方策を検討する。 ・下水道事業の公営企業会計移行の準備作業を着実に進めていく。																																																							
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																							
	(説明) 公共下水道は行政が主体となって整備をすることとなるが、各個人や事業所等が水洗化工事をを行い接続利用することにより目的が達成されるため、水洗化への周知、啓発に努める。局地的な豪雨等による浸水被害の抑制を図るために、行政による下水道施設の整備だけでなく、宅地等の雨水を宅地内で浸透させるなど雨水の流出を抑制する対策も重要なことから、引き続き市民への周知、啓発に努める。																																																							
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						<table border="1"> <thead> <tr> <th>計 (単位:千円)</th> <th></th> <th></th> <th>—</th> <th>—</th> <th>—</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				計 (単位:千円)			—	—	—	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)			有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																															
	H28決算	H29決算見込																																																						
1																																																								
2																																																								
3																																																								
4																																																								
5																																																								
計 (単位:千円)			—	—	—																																																			
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載																																																								
雨水管理総合計画の策定について、リスクの把握と評価が、また、下水道ストックマネジメントについては、限られた予算の中での平準化ということで、大変重要なことだと思うので、検討をお願いする。(下水道審議会)																																																								
近年、局地的な集中豪雨が頻発し、浸水被害が各地で発生しており、早期の対応実施が求められている。そのため、整備可能なところから順次、管渠の増強等についてすみやかに設計及び対策工事を実施するとともに、開発等の際に雨水流出抑制対策を実施するよう促進するとともに止水板設置費補助金の利用促進を図るためPR等の強化を図る。また、現在検討中である雨水管理総合計画及び下水道ストックマネジメント基本計画、下水道事業の計画的な経営基盤の強化を行なうために必要である公営企業会計移行について、着実に準備作業を進めていく。このほか、旧暫定逆線引き地区の汚水管整備や仲町中継ポンプ場の耐震化を推進していく。																																																								

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	公共下水道の整備			総合計画コード	543
部名	都市建設部	主管課名	下水道課	主管課部課コード	050500
関連部課名	市民環境部(環境推進課)、都市建設部(まちづくり推進課、道路整備課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 下水道運営事業	1,001,027	959,228	4	4	現状のまま	
2 公営企業会計移行事業	—	22,535	5	5	現状のまま	
3 污水管建設事業	65,225	33,655	5	5	現状のまま	
4 雨水幹線等整備事業	280,792	349,172	5	5	拡大	
5 私道排水設備工事助成事業	13,860	7,529	5	5	現状のまま	
6 下水道維持管理事業	133,594	125,567	5	5	現状のまま	
7 下水道ストックマネジメント基本計画策定事業	—	42,762	5	5	現状のまま	
8 排水機場維持管理事業	15,066	15,425	5	4	現状のまま	
9 合併処理浄化槽設置促進事業	—	—	5	4	現状のまま	
10 都市計画総務事務事業	—	—	5	5	現状のまま	
11 地球温暖化対策促進事業	—	—	5	4	現状のまま	
12 歩道整備事業	—	—	5	4	現状のまま	
13 水路改修事業	—	—	5	4	現状のまま	
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		1,509,564	1,555,873	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	災害や犯罪に強いまちづくり			総合計画コード	551
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	危機管理室、水道部(水道施設課)、都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課、下水道課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	地域における防災対策が進み、地震・火災・水害の被害を最小限に抑えられるまちになっている。また、防犯環境づくりが進み、犯罪が起きにくいまちになっている。				
施策概要	密集市街地の防災性の向上、商業・業務系の用途地域における不燃化の促進、集中豪雨などに対処できる雨水処理機能の向上、住宅の耐震化を図る。水道施設について、耐震化や老朽施設の更新、応急給水所の整備充実を図る。また、犯罪防止の視点から、道路や公園等の公共空間における夜間照明の確保・充実や、見通しを良くするなど、防犯機能の向上を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		朝霞市地域防災計画		H 28 年度 ~ H 31 年度	
		朝霞市防犯推進計画		H 28 年度 ~ H 32 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断に伴う補助金を交付し、あわせて彩夏祭などで耐震工事の必要性の啓発活動を実施した。 水路の改修や浚渫工事を実施した。 宮戸橋耐震補強工事に負担金を支出した。 防火および準防火地域の拡大に向け、埼玉県の説明会に参加して情報収集を行った。 建築基準法等に基づく相談、審査、許認可、現場確認等を行った。 基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画[改訂版](案)の答申を受けた。 止水板設置費補助金の交付を行った。 防犯灯LED化促進事業の進捗を図るために補助金を交付した。 朝霞市道路整備計画に基づき、道路拡幅路線などの用地買収を行った。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	日常の安全・安心と災害時の安全・安心の確保と準備に向け、さまざまな調査、工事、買収、助成などの事業を実施した			
	子育てが しやすいまち	防犯活動や防犯パトロールを実施し、子どもたちが安全安心に生活ができ、また子育てに心配しないまちづくりを推進した			
	つながりのある 元気なまち	地域における防災訓練や防犯活動、また防犯機能の向上に向け、訓練等を行った			
	自然・環境に 恵まれたまち	市内には数多くの水や緑に囲まれた空間地が点在し、それを利用した避難地の確保や数々のイベントを開催し、自然と環境を上手く活用することができた。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		103,392	141,147	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 防火・準防火地域の指定 地区数 (説明)現在は、北朝霞地区地区 計画他5地区に指定しているが、 今後、朝霞駅周辺や新たな区画 整理などにも指定をしていく	地区	6	6	6	6	7
		6	9	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策や安全対策に向け、横断歩道や橋梁などに道路照明灯を設置した。 ・朝霞市道路整備計画に基づき、道路拡幅路線などの用地買収を行った。 ・各種イベントにおいて耐震工事の必要性について啓発活動を実施した。 ・雨水対策に向け各種工事を実施した。 ・準防火地域を3地区追加指定した。 ・防犯街頭キャンペーンや防犯パトロールを実施した。 ・防災対策の一環として導水管耐震化工事および配水本管布設替工事を実施した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策や安全対策に向け、横断歩道の整備や道路照明灯の設置、また道路拡幅の必要性は高い。 ・災害時に向け、水道管や下水道管の耐震化工事の実施、また耐震化工事の必要性に向けた啓発活動の必要性は高い。 ・防犯街頭キャンペーンや防犯パトロールなどの啓発活動を実施することは、日ごろの防犯に対する意識の向上に役立つため、実施する必要性は高い。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・照明灯などの機器設置の際に、LED照明の採用など環境対策も併せて検討する必要がある。 ・道路整備を進める上で、用地取得及び工事に多額の費用が必要となることから、整備の優先順位を定め、選択と集中により計画的に事業を進める必要がある。 ・道路整備を進める上で、市民要望、規模、時期、工期、費用などの要素が複雑に絡むことから、事業を計画的に進めながら、一方で臨機応変の対応が必要となることがある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明)					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明) <ul style="list-style-type: none"> ・行政については、市民の暮らしを最優先に考え、道路改修や耐震化工事を計画的かつ積極的に防災に強いまちづくりを行う。また、市民は、道路の補修箇所の通報にご協力いただくとともに、地域の方々との防災活動の取組みや、常に防災や防犯に対する意識を持ち続けていただくようにする。 						
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)	有効性	優先性	H31に向けた投入資源の方向性
			H28決算	H29決算見込	貢献度	緊急性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
計 (単位:千円)				—	—	—
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部評価委員会】・防災に関する情報の発信について、常に、新しい情報を、適時適切に行うため、ネットで配信するシステムを充実させるなどさらに工夫をしてほしい。「支え合う心で安全・安心なまちへ」に関する所見より抜粋)</p> <p>・住宅地域における自然や緑地環境の確保のために、生産緑地の保全等に配慮してほしい。(「自然・環境がいきるまちへ」に関する所見より抜粋)</p>					
部長の意見	災害や犯罪に強いまちづくりにあたっては、道路、上下水道等の公共施設の耐震化、老朽化対策、防犯対策等の対応だけでなく、市民、事業者が行う対策や協力も不可欠であり、その取組を啓発し、支援するための取組も必要である。このため、道路、上下水道等の公共施設については、各種対策の必要性等を踏まえた優先度に応じて、計画的に耐震化、防犯対策を講じていくとともに、市民、事業者の取組を啓発、支援する助成制度やソフト対策、啓発活動等も併せて実施していく。また、近年多発している下水道の計画降雨を上回る集中豪雨による雨水浸水対策について、雨水管理総合計画の検討を通じて、具体的な対応方法を検討する。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	災害や犯罪に強いまちづくり			総合計画コード	551
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	危機管理室、水道部(水道施設課)、都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課、下水道課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 建築物耐震化促進事業	6,344	9,423	5	5	現状のまま	
2 水路改修事業	2,047	10,101	5	5	現状のまま	
3 落橋防止対策事業	21,751	39,259	5	5	現状のまま	
4 安全なまちづくり推進検討事業	751	1,127	5	4	現状のまま	
5 建築行政事業	—	—	4	4	現状のまま	
6 都市計画総務事業	—	—	4	4	現状のまま	
7 基地跡地公園・シンボルロード整備事業	—	—	5	5	拡大	
8 街区公園整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
9 雨水幹線等整備事業	—	—	5	5	現状のまま	
10 水道施設耐震化事業	—	—	5	4	現状のまま	
11 道路改良事業	—	—	5	5	現状のまま	
12 道路用地取得事業	—	—	5	5	現状のまま	
13 道路照明灯整備事業	72,499	81,237	5	5	現状のまま	
14 防犯対策推進事業	—	—	4	4	現状のまま	
15 公園施設改修事業	—	—	5	4	現状のまま	
16 児童遊園改修事業	—	—	5	4	現状のまま	
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		103,392	141,147	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	全ての人にやさしいまちづくり			総合計画コード	552
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	総務部(財産管理課)、健康づくり部(長寿はつらつ課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	全ての人にやさしく、安心して、安全・快適に暮らせる、配慮が行き届いたまちとなっている。				
施策概要	子ども、高齢者、障害のある人など誰もが使いやすい施設への改良や、誰もが理解しやすいサイン(案内掲示板など)の導入など、ユニバーサルデザインによるまちづくりを推進する。また、コンパクトで利便性の高い生活環境を整備し、ライフステージに合せた住環境を形成する。さらに、高齢者や低所得者などに市が借り上げた公営住宅の提供を行うとともに、適切な維持管理に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスターplan	計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度	
		第4次朝霞市障害者プラン		H 24 年度 ~ H 29 年度	
		第4期朝霞市障害福祉計画		H 27 年度 ~ H 29 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス事業者に対し、バリアフリー化に向けたノンステップバス導入に対する購入費の一部補助を行った。 市内の公共交通空白地区の改善を図るため、引き続き市内循環バスの運行を行うとともに、運行見直し方針に基づき運行見直し及び内間木線社会実験を行った。 高齢者住宅の契約や住宅改善費の補助、また住替家賃の補助や住宅資金の助成を行った。 市営住宅における入居者の管理、補欠登録の募集、入退去者の事務手続きを行った。 朝霞駅にホームドアを設置する鉄道事業者に対し事業費の一部を負担金として支出した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	全ての人が円滑に移動できるよう、公共交通機関の整備を行い、高齢者や障害者、また子育て世帯の方々に配慮した施設の運営を心がける			
	子育てが しやすいまち	公園や広場、保育園や駅など、子育てしている方々が安全安心に利用できるよう施設の改善を行う			
	つながりのある 元気なまち	市内循環バスは地域に密着した交通網であり、多くの市民が利用し生活の足となっている			
	自然・環境に 恵まれたまち	市内循環バスは市内全域を循環しており、朝霞市の文化、自然、環境にふれあう地域や施設を結ぶ非常に便利な路線を形成している			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		61,815	60,792	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 「障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備」の不満度 (説明)第4次朝霞市障害者プラン・第3期朝霞市障害福祉計画の策定時に、障害福祉課で実施したアンケート結果による不満度の割合		24	23	22	21	20
		24	23	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・市営住宅の入居者の家賃や共益費の滞納はなく、補欠入居者の抽選会を実施する等適正な運営を行った。 ・武藏野線旅客運送改善対策協議会及び東武東上線改善対策協議会に要望活動を実施した。 ・路線バス事業者に対しハンステップバス導入にあたり補助金を交付した。 ・市内循環バス利用者数が前年度より減少したが、目標人数は達成することができた。 ・朝霞駅にホームドアを設置する鉄道事業者に対し、事業費の一部を負担金として支出した。 ・介護保険の住宅改修の上乗せ補助事業として対象者に対し助成することができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・市営住宅については、住宅に困窮している低所得者に供給しているため市民の需要は高い。 ・高齢者、障害者をはじめ誰もが暮らしやすい環境となるよう、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの設計やリフォームに対する助成の需要も高い。 ・鉄道及びバスなどの公共交通は多くの市民が利用することから、バリアフリー化の推進について事業者に要望、助成を行うことは大変重要である。
施策を進める上での問題点・課題	・市内循環バスについては、運行見直し方針に基づき実施したが、実施ができていない高齢者の割引き運賃や公共交通空白地区のさらなる改善については引き続き実施に向けた検討を行っていく必要がある。 ・高齢者住宅への家具転倒防止器具等設置費補助事業の利用促進を図る必要がある。 ・市営住宅の戸数に限りがあり、現在もキャンセル待ちの方々が多い状況にある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																				
	(説明) ・高齢者や障害者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりの推進に向け、拠点である駅や地域の公共公益施設への交通アクセスの向上に努めていく。 ・市営住宅の管理、高齢者住宅のバリアフリー化に対するリフォーム補助については、引き続き実施していく。 ・公共交通機関のバリアフリー化については、鉄道及びバス事業者と良好な関係を保ちながら、引き続き要望や助成を行っていく。																																																				
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																				
	(説明) ・行政は市民要望の多い市内循環バスの見直しや高齢者住宅の確保、またリフォーム補助などの事業を継続して行う。また、市民の方々に、住宅のバリアフリー化の助成や啓発を図るとともに、移動手段として自動車ではなく電車やバスなどの公共交通を積極的に利用していただけるよう、公共交通の利用促進を図る。																																																				
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th>有効性</th> <th>優先性</th> <th>H31に向けた投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> <th>貢献度</th> <th>緊急性</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td><td></td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>		事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性	優先性	H31に向けた投入資源の方向性		H28決算	H29決算見込	貢献度	緊急性		1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載		
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性	優先性	H31に向けた投入資源の方向性																																																
	H28決算	H29決算見込	貢献度	緊急性																																																	
1																																																					
2																																																					
3																																																					
4																																																					
5																																																					
計 (単位:千円)			—	—	—																																																
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】・公共施設の整備については、今後増えると考えられる外国人市民や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催時の外国人訪問者にも対応したユニバーサルデザインを意識して進めてほしい。(「人にやさしいまちへ」に関する所見より抜粋)																																																				
部長の意見	全ての人にやさしいまちづくりにあたり、高齢者、子ども、障害者をはじめ誰もが暮らしやすい環境を整備し、歩いて暮らせるまちづくりをめざし、公共交通機関の充実や公共交通空間におけるバリアフリー化を推進するとともに、公営住宅の確保や住宅のバリアフリー化など居住環境の整備も必要である。このため、公共交通空白地区の解消に向けて引き続き取り組むとともに、鉄道駅及び路線バスのバリアフリー化を推進するため、事業者に対する助成や要望を積極的に行う。また、公営住宅についても適切な管理を引き続き行うとともに、住宅のバリアフリー化等のための助成も継続して行う。さらに東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場周辺の道路案内標識及び地点名標識の多言語化について検討していく。																																																				

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	全ての人にやさしいまちづくり			総合計画コード	552
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	総務部(財産管理課)、健康づくり部(長寿はつらつ課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 都市計画総務事業		—	—	4	4	現状のまま
2 交通施策推進事業		—	—	4	4	現状のまま
3 市内循環バス運営事業		—	—	4	4	現状のまま
4 営繕行政事業		—	—	4	4	現状のまま
5 高齢者住宅支援事業		—	—	4	4	現状のまま
6 市営住宅事業		61,815	60,792	4	4	現状のまま
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		61,815	60,792	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	産業育成のための連携強化			総合計画コード	561
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	都市に近い住宅地として、住環境と共存した商工業・農業の発展・発達を目指すとともに、地域コミュニティが向上し、市全体が賑わいと活気に満ちている。				
施策概要	朝霞市商工会や商店会等が実施する事業を補助し、「あさか産業フェア」等のイベントや商店街等の振興を支援する。また、農業生産者に対する各種補助金による財政的支援、また市民農園等の事業を実施する。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市中心市街地活性化基本計画	計画期間	H 15 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回第1日曜日に朝市を開催した(朝市出店者協議会)。 商工会事業費補助金、商工まつり補助金、商工業者研修事業費補助金、商店街活性化推進事業費補助金等の各種補助金を交付し、各事業を支援した。また、商工会と定期的に連絡調整会議を開催するなど連携に努めた。 中小売商業高度化事業構想推進事業費(TMO)補助金により朝霞駅周辺の活性化事業を展開した。 産業振興基本計画策定委員会を4回開催するとともに、各種アンケート調査(事業所2種、商店会、農業者、市民)を実施・分析し、抽出した課題から骨子案を作成した。 朝霞市商工会を産業文化センターの指定管理者に指定し、その管理運営についてモニタリングを実施したほか、必要な指導や助言、意見交換を実施した。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	産業文化センターの保守点検、施設修繕を適宜実施した。			
	子育てが しやすいまち	親子がふれあい親しめる各種イベントや催しを実施した。			
	つながりのある 元気なまち	市民と事業主や農業者がふれあう各種イベントや催しを実施した。			
	自然・環境に 恵まれたまち	産業文化センターの施設管理において、省エネルギーを意識し運用を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		71,413	107,041	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① あさか産業フェアに参加した事業所数 (説明) あさか産業フェアに参加した事業者の数	事業所	67	67	68	68	69
		70	64	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) あさか産業フェアに参加した事業所は目標を達成した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 本市の産業が今後も発展していくためには、市内商工業の発展や商店街が活気に満ち溢れ、地域コミュニティが醸成されることが必要となる。引き続き、商工会や関係機関と連携し、商店街や商工業者、また農業者に対する支援を継続する。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 商工業者の高齢化や後継者不足、大型店舗やチェーン店舗の進出などといった課題はあるが、市と商工会と事業所が連携するほか、事業者同士も連携することで、地域性を活かした産業施策の展開を検討する必要がある。これらについては、平成29年度から策定を開始した産業振興基本計画の中で捉え、解消していく方向で検討している。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 商工会や金融機関等と連携し、市内の産業育成につながる情報を収集し、あさか産業フェア等の機会を通じて発信していく。また、あさか産業フェアをはじめとする商工会や、商店会が実施する地域活性化イベントを支援し、市民と事業者との連携、交流を促進とともに、地域に密着した産業の振興を支援する。 新たに農業経営を営もうとする若い世代の確保に向け、さいたま農林振興センター、地元農業協同組合等と連携を強化する。																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 市内の商工業や農業を発展、振興していくためにも、市民と商店主、農業者等が連携し、イベントを通して値域に密着した活気溢れる催しの開催に向けて、市もバックアップに努めていく。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center; width: 30%;">事務事業名</th> <th colspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">H28決算</th> <th style="text-align: center;">H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">計 (単位:千円)</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;"></td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">—</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">—</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">—</td></tr> </tbody> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1																																																		
2																																																		
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)			—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【商工会】市内商工業を振興していくためには、市との連携協力が不可欠である。 【商店会】特に意見はない。 【農業委員会】農業者の担い手不足、高齢化などにより遊休農地対策が重要である。																																																	
部長の意見	指定管理者である商工会と連携し、産業文化センターが市内産業の拠点となるようサービス面や機能面での充実を図る。 また、商工業者や農業者が関係する各種催しを開催し、市民との交流の場を引き続き提供していく。																																																	

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	産業育成のための連携強化			総合計画コード	561
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 産業文化センター管理運営事業	66,276	65,478	3	3	現状のまま	
2 起業家育成支援事業	—	—	4	4	現状のまま	
3 商工会支援事業	—	—	4	4	現状のまま	
4 商工総務事務事業	5,137	27,509	5	4	現状のまま	
5 商店会支援事業	—	—	4	4	現状のまま	
6 農業祭事業	—	—	3	3	現状のまま	
7 農業振興支援事業	—	—	3	3	現状のまま	
8 産業振興基本計画策定事業	—	14,054	5	5	H30で休止・廃止・終了	
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		71,413	107,041	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	起業・創業の支援			総合計画コード	562
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	ビジネスに関する情報を発信、資料を収集し及び提供を行い、市内で起業を目指す方等を支援することにより、市内の産業の活性化や雇用の拡大が図られている。				
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・起業に係るセミナーによる相談事業の実施、また、起業をする方に向けた融資制度を通じて起業・創業に対して総合的な支援を行う。 ・ビジネス支援サービス事業として、仕事や雇用に関する情報や資料を提供する。 				
個別計画 関連計画	計画名称		計画期間	H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	起業家相談事業については、相談件数26件、起業支援セミナー事業についてはセミナーを3回実施し、計31名の参加者があった。				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	起業を望む相談者に対し、相談事業やセミナーを実施し、支援に努めた。			
	子育てがしやすいまち	小さなお子さんを抱え就労を希望する方に対し、内職相談を実施した。			
	つながりのある元気なまち	商工会や金融機関等と連携し、起業を目指す方等の育成、支援に努めた。			
	自然・環境に恵まれたまち	産業文化センターの施設管理において、省エネルギーを意識し運用を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		3,672	4,223	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 支援により起業した件数 (累計) (説明) 起業相談、起業セミナーを通じて実際に起業に至った件数	件	80	105	130	157	177
		64	70	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 目標は達成しなかったが、相談やセミナー終了後のアンケート結果からも必要性の高い施策であり、引き続き必要な支援を続ける。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 起業・創業に対する市民ニーズは相談件数やセミナー参加者数からも考えられるように重要性は高い。引き続き企業を希望する方、起業間もない方を支援する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 起業家育成相談や起業家育成支援セミナーなどを引き続き実施し、起業や創業を望む市民への参加が効果的に図られていくような周知、PR方法を工夫する必要がある。 また、行政の主催するセミナー等への参加は敷居が高い等の意見が市民からあり、参加しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) ・創業事業支援計画に基づき、商工会や金融機関等と連携を図っていく。 ・起業に係る相談事業、セミナーを継続して行う。 ・起業家向け融資制度及び融資に係る利子の補給事業を行う。 ・融資制度利用者に対する債務不履行に係る損失補償事務を行う。 ・仕事や雇用に係る情報提供支援を行う。(ビジネス支援サービス事業)																																																	
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 起業を希望する方や起業して間もない方の意見を尊重しながら、引き続き起業知識への助言や資金の調達方法など、起業及び創業への支援を行っていく。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 起業家育成支援事業</td> <td>3,672</td> <td>4,223</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 商工会支援事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>3,672</td> <td>4,223</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 起業家育成支援事業	3,672	4,223	4	4	現状のまま	2 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま	3						4						5						計 (単位:千円)	3,672	4,223	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 起業家育成支援事業	3,672	4,223	4	4	現状のまま																																													
2 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)	3,672	4,223	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【商工会】市と連携を密にしていくことが重要である。																																																	
部長の意見	商工会や金融機関と連携し、起業や創業を目指す市民への支援体制に努めるとともに、図書館北朝霞分館のビジネス支援コーナーを有効に活用する。また、起業支援セミナーや起業家育成相談については、市民が相談しやすい環境づくりに努め、より充実した相談体制の構築を図る。																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	魅力ある商工業機能の形成			総合計画コード	571
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	<p>・誰もが安心して買い物ができ、賑わいのある魅力的な商店街となっている。また、商店街が実施する活性化事業等により中心市街地が活性化され、その波及効果により市全体の経済活動が活発になっている。</p> <p>・都市近郊という地の利を活かしつつ、安定した工業経営と住環境の共存が図られている。</p>				
施策概要	<p>各商店街の自主事業等に対する助成を通じて、魅力ある利用しやすい空間づくりを進め、商店街の機能向上を図るとともに、中小企業融資制度等による助成を通じて、商工業の経営支援を行う。</p>				
個別計画 関連計画	計画名称	中心市街地活性化基本計画	計画期間	H 15 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<p>・商店街の賑わいを創出し、活性化を支援するため、商店会が実施するイベント等の事業や街路灯の整備、維持管理に要する費用などについて支援を行った。</p> <p>・商工会と連携し、「あさか産業フェア」などの開催を通して事業者同士の交流や、市内工業製品の展示、商談、受発注の機会を提供するなど、市内工業の活性化に向けた取り組みを実施するとともに、工業経営支援のため、事業資金融資制度のPRを行い、既存の工業の活性化を支援した。</p> <p>・中小売商業高度化事業構想推進事業費補助金として、TMO(タウンマネージメント機関:朝霞駅周辺のまちづくりを横断的、総合的に調整・推進・運営する機関)認定事業者(朝霞市商工会)に対し助成を行った。</p>				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	商店街が安全・安心に守られるよう街路灯や防犯カメラ設置の要望調査を行った。			
	子育てが しやすいまち	親子で親しめる商店会等の催しへの運営支援を行った。			
	つながりのある 元気なまち	商店会の実施する事業等について運営支援を行った。			
	自然・環境に 恵まれたまち	商店会に対して、街路灯をLED照明に切り替えるなど提案を行った。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		23,118	24,110	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 商店街活性化事業実施回数 (説明) 商店街活性化推進事業補助金により行われた商店街活性化事業の回数	回	46	46	46	46	46
		46	46	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 目標は達成することができた。 商店街に関連する各補助金により、各商店会が活き活きとした魅力あるイベントが実施されている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 商店街は「地域コミュニティの核」であり、また身近な商業集積地として地域に必要な存在であり、商店会が実施する事業への支援は引き続き必要である。
施策を進める上で問題点・課題	 (説明) 商業・工業・農業を含めた産業振興分野の総合的な指針となる計画の策定が必要である。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 商工会や商店会の運営面において支援することで、市民の求める商機能が充実され、また、地域コミュニティの核として商店街の活性化を図っていく。 中心市街地の活性化に向けたTMO構想事業の推進を図るとともに、「朝霞市産業振興基本計画」の策定に着手し、市の商工業及び農業を見据えた総合的な指針を定める。																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 事業の実施については、各商店会や商工会などの取り組みを尊重し、引き続きイベント活動など運営面への支援を行う。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 商工会支援事業</td> <td>18,681</td> <td>19,057</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 商店会支援事業</td> <td>4,437</td> <td>5,053</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>23,118</td> <td>24,110</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 商工会支援事業	18,681	19,057	4	3	現状のまま	2 商店会支援事業	4,437	5,053	4	4	現状のまま	3						4						5						計 (単位:千円)	23,118	24,110	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 商工会支援事業	18,681	19,057	4	3	現状のまま																																													
2 商店会支援事業	4,437	5,053	4	4	現状のまま																																													
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)	23,118	24,110	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【商工会】魅力ある産業機能を形成していくためには、事業の実施にあたり市との連携が不可欠である。 【商店会】市と連携し、空き店舗の解消に向けた対策が必要である。</p>																																																	
部長の意見	中心市街地活性化や地域コミュニティの核としての商店街の機能向上を図るため、商工会や商店会などと連携し、魅力あるまちづくりを推進する。また、平成29年度以降に策定する計画の中に朝霞市の将来を見据えた商工業の位置づけも見据えて施策を推進していく必要性がある。																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	中小企業の経営基盤の強化			総合計画コード	572
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	朝霞市商工会等と連携しながら、中小企業を中心とした市内企業に経営支援を行うことにより、経営基盤が強化され、市内の産業が活性化されている。					
施策概要	市内企業の経営基盤の強化・安定化を図るため、朝霞市商工会や関係機関と連携し、中小企業融資制度等の利用促進を図る。					
個別計画 関連計画	計画名称			計画期間	H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業融資制度の利率を見直し、融資を希望する方が借りやすくなるよう改善した(7月:1.75%→1.5%)。 ・中小企業融資制度を活用している方で、対象の方に、利子を補助した(1年に支払った額の4/7)。 ・商工会との連絡調整会議を定期的に開催した。 ・起業家育成相談及び起業家支援セミナーを開催した。 ・社会保険労務士による労働・社会保険相談を毎月第3土曜日に開催し、労働に関する問題や疑問等を持つ市内事業者が相談できる体制を整えた。 ・市内事業者を利用し、10万円以上の住宅リフォーム工事をする市民に、リフォーム費用の一部を補助した(工事費の5%、限度額5万円)。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	誰もが自立した生活を営めるよう、雇用を含めた産業振興のための各施策を実施した。				
	子育てが しやすいまち					
	つながりのある 元気なまち	関係機関と連携を図りながら、各施策を実施した。				
	自然・環境に 恵まれたまち					
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	
		115,103	106,528	—	—	

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 融資件数 (説明) 中小企業向けに実施した融資の件数(年間)	件	53	54	55	57	57
		36	39	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 中小企業向け融資の実行件数について、目標は達成しなかったものの、事業者が安定して経営していくために引き続き支援を行う。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 中小企業の経営状況は依然として厳しい状態であるものと見受けられ、商工会や関係機関を通して人材育成や情報収集を行うとともに、消費者の求めている企業の経営ができるよう、引き続き融資制度を行うほか、相談事業を実施するなど、必要な支援を行っていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 商工会や金融機関等と連携し、事業者が継続して活動できるような情報提供や相談体制の構築に努めるとともに、後継者や若手経営者を育成していくことが重要である。また、地域�済の振興のため、市内事業者の商工会への加入促進に努めていく。 中小企業の経営安定を支援するため、経営相談やセーフティーネット保証制度等の支援策を周知していく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 市内事業者に対して、中小企業の経営基盤の強化を図るために各種施策を展開していくとともに、商工会と連携し、商工会加入促進を高めるため、PR方法等の検討を行う。 経営相談事業やセーフティーネット保証制度等の支援策を維持していく。																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 以前景気が厳しい状況の中で、各事業者の主体的な取り組みを支援するとともに、関係の強化に努めていく。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 個人住宅リフォーム資金補助事業</td> <td>6,481</td> <td>6,878</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 起業家育成支援事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 商工会支援事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4 内職相談事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>5 中小企業融資支援事業</td> <td>108,622</td> <td>99,650</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>115,103</td> <td>106,528</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 個人住宅リフォーム資金補助事業	6,481	6,878	5	5	現状のまま	2 起業家育成支援事業	—	—	4	3	現状のまま	3 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま	4 内職相談事業	—	—	3	3	現状のまま	5 中小企業融資支援事業	108,622	99,650	5	5	現状のまま	計 (単位:千円)	115,103	106,528	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 個人住宅リフォーム資金補助事業	6,481	6,878	5	5	現状のまま																																													
2 起業家育成支援事業	—	—	4	3	現状のまま																																													
3 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
4 内職相談事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
5 中小企業融資支援事業	108,622	99,650	5	5	現状のまま																																													
計 (単位:千円)	115,103	106,528	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【商工会】市と連携し、中小企業の安定した経営を保持する取り組に努めていく。</p>																																																	
部長の意見	中小企業が安定して経営を継続していくため、各種融資制度や相談業務など商工会と連携を図り充実していく。 また、市内事業者の活性化を図るためにも、個人住宅リフォーム資金補助事業は引き続き継続していく。																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	都市農業の振興			総合計画コード	573
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名	学校教育部(学校給食課)、農業委員会事務局				

1. 施策概要

めざす 目的成果	農業後継者の育成がなされることにより、農業経営の安定化を図るとともに、地産地消の推進や食育への理解が深められている。また、農業体験事業による市民と農家との交流により、都市型農業の振興が図られている。					
施策概要	農業後継者育成のために農業者や農業団体を支援するとともに、地産地消を推進するための直売事業を支援する。また、農業技術の向上を図り、農業体験や緑肥作物種の配付などを通じて、市民の都市近郊農業への理解を深める。					
個別計画 関連計画	計画名称			計画期間	H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 浜崎農業交流センターを農産物直売組合に貸出し、地場農産物を直売し市民と農業者が交流を図ることができた。 市内に市民農園8農園594区画を設置・管理し、市民に農作物栽培の場を提供した。 農業祭を開催し、農業者と消費者の交流が深まるとともに、都市農業の振興と理解を得ることができた。 地場野菜出荷用箱の購入費補助を助成し、地場野菜の振興等を図った。 緑肥作物種子の配布や、農業体験を実施し市民の農業理解を深めた。 農業者・農業団体運営支援のため補助金を交付した。 放射性物質の市内産農産物への影響調査を独自に定期的に行い、安全性を確認した。 農地の利用状況調査及び遊休農地対策を行った。 地場野菜を学校給食に起用し、児童・生徒は新鮮な野菜を食している。また、これにより都市農業の振興が図られた。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	安全・安心な地場農産物を提供するため、定期的に放射性物質の検査を行った。			
	子育てが しやすいまち	農業祭や農業体験といった親子がふれあい農業への理解を深める事業を実施した。			
	つながりのある 元気なまち	農業祭や農業体験を実施し、市民と農業者の交流を図る場を提供した。			
	自然・環境に 恵まれたまち	農地の利用状況調査などから、適正な農地の保全、管理に努めた。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		72,651	74,393	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 認定農業者数 (説明)農業経営基盤強化促進法に基づく、効率的で安定した農業を目指す「農業経営改善計画」を市町村に認定された農業者数	人	24	27	30	32	34
		23	25	—	—	—
② 農業体験の参加者数 (説明)農作物収穫体験の参加者延べ人数	人	1,260	1,260	1,260	1,260	1,260
		988	913	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 目標は達成しなかったが、認定農業者制度は農業経営の安定につながることから担い手育成に資するため、引き続き同制度を活用する。また、農業体験事業は、天候不良により中止となった事業があったが、市民の都市農業の理解を深めることに資するため、引き続き事業を継続する。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 市民が新鮮な農作物を求める需要は高いため、地産地消の推進にあたり農業者や農業団体の直売事業を支援する必要がある。また、都市農業は多様なメリットを有するため、農業体験などを通じて、都市農業を振興していく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																	
	(説明) ・担い手育成のための認定農業者制度を活用する。また、地産地消を推進するための直売事業を支援する。 ・農業体験事業や市民農園事業などを通じて、市民の都市農業への理解を深める。 ・農業委員会や農協等関係機関と連携して遊休農地対策を行うことにより、農地の保全を効率的に進める。																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																	
	(説明) 食料自給率の向上や担い手の育成、農地の保全など行政が行う部分と農業者自らが行う農業経営安定のための自助努力などのバランスを保ちながら進める必要がある。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center; width: 30%;">事務事業名</th> <th colspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2" style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">H28決算</th> <th style="text-align: center;">H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;"></td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">計 (単位:千円)</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;"></td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">—</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">—</td><td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">—</td></tr> </tbody> </table> <input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1																																																		
2																																																		
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)			—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【農業委員会】都市農業の特性を生かすためにも、担い手不足の解消、遊休農地縮減に市と連携して取り組む必要がある。																																																	
部長の意見	都市農業振興のため、市民農園事業や農業体験事業などを通じて市民と農業者の交流や市民の都市農業への理解を深めていくとともに、農地保全のため、担い手の育成支援や遊休農地対策など必要な支援や取り組みを継続していく必要がある。 また、市内小・中学生には学校給食の中で、引き続き新鮮で安全・安心な地場野菜の提供に努める。																																																	

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	都市農業の振興			総合計画コード	573
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名	学校教育部(学校給食課)、農業委員会事務局				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1 農業総務事務事業	3,099	3,151	4	4	現状のまま	
2 浜崎農業交流センター運営事業	4,221	4,370	4	4	現状のまま	
3 市民農園事業	10,926	10,710	4	4	現状のまま	
4 農業祭事業	7,286	7,286	4	4	現状のまま	
5 農業振興支援事業	10,443	11,738	4	4	現状のまま	
6 水利組合補助事業	3,303	3,390	4	4	現状のまま	
7 学校給食運営事業	-	-	3	3	現状のまま	
8 農業委員会運営事業	26,494	26,810	4	4	現状のまま	
9 農家・農地基本台帳管理事業	6,879	6,938	4	4	現状のまま	
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
計 (単位:千円)		72,651	74,393	—	—	—

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	勤労者支援の充実			総合計画コード	581
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	就労を希望する市民自らが、望む事業所に雇用され、また、市内事業者は、人材を地域から雇用することができている。					
施策概要	労働者を支援するため、労働に関する各種相談事業を実施するほか、関係機関と連携しながら求人情報等を提供することで働きやすい環境の充実を図る。 内職相談員を委嘱し、内職に関する相談を実施する。					
個別計画 関連計画	計画名称			計画期間	H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・労働・社会保険相談を埼玉県社会保険労務士会あさか支部に委託し、労働問題の専門家である社会保険労務士による相談業務を毎月第3土曜日に産業文化センターで開催した(年12回)。 ・勤労者住宅資金貸付制度の休止に伴い、利用者が支払っている利子の利率が高くなるため、その差額を中央労働金庫朝霞支店に補助した。 ・内職相談員を委嘱し、毎週火・金に内職相談を実施し、内職を希望する市民及び内職者の紹介を希望する事業所からの相談を受けた。 				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	生活のセーフティネットとして、勤労者支援事業を実施した			
	子育てがしやすいまち	暮らしやすい生活環境のために、勤労者支援事業を実施した。			
	つながりのある元気なまち	雇用や地域の活力を支えるために、勤労者支援事業等を実施した。			
	自然・環境に恵まれたまち	安心して働くことができるまちとして魅力をPRするため、勤労者支援等を実施した。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		1,720	1,729	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 労働・社会保険相談件数 (説明) 毎月1回第3土曜日、年12回 実施	件	12	12	12	23	23
		21	15	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 指標は達成しているが、今後とも各事業を市民の皆様に周知を行うとともに、勤労者や事業者のニーズに合った事業実施を心がけていく。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 長時間労働やブラックバイト、働き方改革など、労働に関するキーワードが多く聞かれる中、労働の専門家である社会保険労務士に市民が気軽に相談できる場として、労働・社会保険相談は必要な事業であると考える。市民の方が手軽に相談することができ、また知識を得ることができる場として、実施の重要性は変わらないと考えている。 また、外に働きに出ることができない市民への支援として、内職の紹介はセーフティネットとして機能している。
施策を進める上で問題点・課題	(説明) 各種相談事業の認知拡大を図る必要がある。

4. 今後の展開方針【部としての判断】

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 勤労者支援を図るため、ハローワーク等の関係機関と連携しながら引き続き実施していく。																																																	
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 全体として、雇用環境の改善は見られるものの、労働等でのトラブル等は依然としてあることから、今後も行政として実施していく必要がある。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 内職相談事業</td> <td>1,086</td> <td>1,088</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 勤労者支援事業</td> <td>634</td> <td>641</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 商工会支援事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>1,720</td> <td>1,729</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 内職相談事業	1,086	1,088	3	3	現状のまま	2 勤労者支援事業	634	641	3	3	現状のまま	3 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま	4						5						計 (単位:千円)	1,720	1,729	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 内職相談事業	1,086	1,088	3	3	現状のまま																																													
2 勤労者支援事業	634	641	3	3	現状のまま																																													
3 商工会支援事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)	1,720	1,729	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【ハローワーク朝霞】引き続き行政と連携して推進していく必要がある。 【朝霞地区雇用対策協議会】今後とも加盟団体と連携を密にし、引き続き事業の推進を図っていく必要がある。</p>																																																	
部長の意見	各種相談においての周知に努め、相談者が利用しやすいものとなるよう工夫していく必要がある。 また、相談後も就労や起業に結びつくような体制づくりを関係機関などと調整するなど、検討していく必要がある。																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	雇用の促進			総合計画コード	582
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	就労を希望する市民が自ら望む事業所に雇用され、また、市内事業者は人材を地域から雇用することができている。					
施策概要	朝霞地区雇用対策連絡協議会や埼玉県雇用開発協会等の関係機関と連携しつつ、就職支援セミナーや就職支援相談会等を通じ、就労を希望する市民を支援する。					
個別計画 関連計画	計画名称			計画期間	H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	
					H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	就職支援相談は、毎月第2、第4水曜日に実施し、年間で24回実施した。 就職支援セミナーは、3回開催(うち1回は女性限定)した。 埼玉県との共催で、就職支援セミナーを2回(女性セミナー、シニアセミナー)開催した。 ハローワーク朝霞、ジョブスポット志木等との共催で、シニア向け就職合同面接会を開催した。 内職相談は、毎週火曜日及び金曜日に実施し、年99回実施した。						
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	就労に関わる諸問題や悩みを解決する場の提供するため各事業を行った。					
	子育てが しやすいまち	暮らしやすい生活環境を作るため、就労事業を行った。					
	つながりのある 元気なまち	魅力あるまちづくりの一助とするため、労務環境の相談等の場の提供を行った。					
	自然・環境に 恵まれたまち						
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度		
		1,201	1,587	—	—		
		H32年度					

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 就職率 (説明) 就職支援セミナー参加者の就職率	%	24	24	24	24	24
		22	24	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<p>(説明) 目標を達成することができた。各事業とも、豊かな市民生活を送る上で重要な事業と考えている。今後とも、市民の皆様のニーズを捉えつつ、各事業の課題をクリアし、事業を実施していく。</p>
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	<p>(説明) 就労支援は民間事業者でも実施しているものの、費用を要することなどもあることから、身近な相談等ができる場を提供することは必要である。また、有効求人倍率等の指標を見ると雇用環境の改善が見られるものの、就労を希望する市民がいる限り必要な事業である。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明) 事業がより多くの市民に認知又参加していただけるように、周知に努める。また、特に内職相談事業は、求人の開拓が課題である。</p>

4. 今後の展開方針【部としての判断】

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																																	
	<p>(説明) 今後も継続的に事業を行っていく。就職支援セミナーについて、市の方向性や時流を勘案しながらコンテンツの改良を図っていく。</p>																																																	
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																																	
	<p>(説明) 就労支援は民間事業者でも実施しているものの、費用を要することなどもあることから、身近な相談等ができる場を提供することは必要であるので、行政の役割は大きいものと考える。</p>																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 就労支援事業</td> <td>1,201</td> <td>1,587</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 起業家育成支援事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 内職相談事業</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>1,201</td> <td>1,587</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 就労支援事業	1,201	1,587	3	3	現状のまま	2 起業家育成支援事業	—	—	3	3	現状のまま	3 内職相談事業	—	—	3	3	現状のまま	4						5						計 (単位:千円)	1,201	1,587	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 就労支援事業	1,201	1,587	3	3	現状のまま																																													
2 起業家育成支援事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
3 内職相談事業	—	—	3	3	現状のまま																																													
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)	1,201	1,587	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【ハローワーク朝霞】引き続き、行政と連携し推進していく必要がある。 【朝霞地区雇用対策推進協議会】行政等、関係機関と連携を密にし、引き続き事業の推進に努める。</p>																																																	
部長の意見	<p>各種相談においての周知に努め、相談者が利用しやすいものとなるよう工夫していく必要がある。 また、相談後も就労や起業に結びつくような体制づくりを関係機関などと調整するなど、検討していく必要がある。</p>																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	シティ・セールス朝霞ブランドの育成			総合計画コード	591
部名	市民環境部	主管課名	産業振興課	主管課部課コード	030200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす 目的成果	「シティ・セールス朝霞ブランド」に認定された地域資源が、ブランドを活用した事業展開等により市の内外に認知され、朝霞の魅力が発信されている。				
施策概要	黒目川花まつり、彩夏祭等の事業展開を図り、市の内外にシティ・セールス朝霞ブランドをPRし、また、シティ・セールス朝霞ブランドに認定できる新たな地域資源の掘り起こしを行う。				
個別計画 関連計画	計画名称		計画期間	H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	
				H 年度 ~ H 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	平成30年2月4日(日)、埼玉県土整備事務所駐車場において、北朝霞商業振興会と協力し、「第6回北朝霞どんぶり王選手権」を開催(第11回あさか産業フェア)と同時開催)し、約26,000人が来場した。黒目川花まつり、朝霞アートマルシェ、あさか商工まつりの各事業を朝霞市商工会等と連携しながら実施した。中心市街地活性化の一助とするため、朝霞駅南口広場でストリートライブを開催した。シティ・セールス朝霞ブランド検討委員会を3回開催し、ブランド5点を再認定、2点を新規認定(旧高橋家住宅、公園通り)した。				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	イベントの実施に際しては、誰もが参加しやすくするため、段差の解消等に留意した。			
	子育てが しやすいまち	アートマルシェは多くの市民の模擬店をいただき、地域活性化と交流の促進に留意した。			
	つながりのある 元気なまち	地域資源を広くPRするため、シティ・セールス朝霞ブランドであるアートマルシェをはじめとするイベントを朝霞市商工会と連携しながら実施した。			
	自然・環境に 恵まれたまち	黒目川花まつりでは、黒目川の自然環境が十分にわかるイベントの実施や会場配置としている。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		2,633	4,938	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① シティ・セールス朝霞ブランドの認定数 (説明) シティ・セールス朝霞ブランドの認定や更新、追加等	点	5	6	7	7	7
		5	5	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) シティ・セールス朝霞ブランド検討委員会において、既存の5点のほか、新たに2点のブランド追加を市長に提言することとなり、平成30年度からは新たに7点をブランドとして認定することとなった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) イベント等を実施することにより、市の活力や地域資源を広くPRし、多くの人が、訪れたいと感じる魅力あるまちづくりを図ることは、人口減少社会に入ること等今後の社会環境の変化に対応するためには、必要な施策である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 北朝霞どんぶり王選手権では、会場の狭小との意見があることから、どのような事が可能か検討していく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input type="checkbox"/> [複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 引き続き各イベント等を実施する。 また、シティ・セールス朝霞ブランドは、平成30年度の機構改革により、シティ・プロモーション課に事務を移管する。																																																	
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 各イベント等の実施については、朝霞市商工会をはじめとする関係機関と連携を図りながら実施していく。																																																	
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 シティ・セールスイベント事業</td> <td>2,633</td> <td>4,938</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>2,633</td> <td>4,938</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>						事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 シティ・セールスイベント事業	2,633	4,938	4	3	拡大	2						3						4						5						計 (単位:千円)	2,633	4,938	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性																																													
	H28決算	H29決算見込																																																
1 シティ・セールスイベント事業	2,633	4,938	4	3	拡大																																													
2																																																		
3																																																		
4																																																		
5																																																		
計 (単位:千円)	2,633	4,938	—	—	—																																													
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【行政改革懇談会】 「シティ・セールス朝霞ブランド」をPRしていくことは、努力を要するが、選出にあたっては、市民に広く、長く愛されるものを検討して欲しい。</p>																																																	
部長の意見	「シティ・セールス朝霞ブランド」については、新たに2項目を追加し、7項目として再認定が行われ、ロゴも作成した。今後は積極的なPRを行っていく必要がある。 なお、次年度は担当部署に適切に移管し、事務の引継ぎを行う。																																																	

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	シティ・プロモーションの展開			総合計画コード	592
部名	市長公室	主管課名	政策企画課	主管課部課コード	010100
関連部課名	市長公室(市政情報課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	市制施行50周年記念事業や東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に市内外に広く本市の魅力を発信するシティプロモーションが展開できており、市の認知度が向上されている。				
施策概要	市民や事業者と一体となり、市制施行50周年記念事業を実施し、その機運を東京オリンピック・パラリンピックの関連事業に生かすことでのスポーツのみならず、経済や観光、国際交流、文化、教育など様々な分野で新たな発展や質的向上をもたらす。				
個別計画 関連計画	計画名称	市制施行50周年記念事業計画	計画期間	H 28 年度 ~ H 29 年度	
		オリンピック・パラリンピック関連事業計画		H 28 年度 ~ H 32 年度	
		朝霞市シティ・プロモーション取組基本方針		H 28 年度 ~ H 32 年度	

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	・市勢要覧の作成、掲示板の維持管理、朝霞駅前電光掲示板の運用、ホームページの管理・運営、防災行政無線の運用、ツイッター・フェイスブックの更新、メールの配信、データ放送サービス(テレビ埼玉)の更新、マスコミへの対応(記者会見・記者発表)等情報発信をした。 ・広報あさかを平均頁数約40ページで毎月一回(1日)発行した。また、毎号表裏表紙のカラー印刷を実施した。毎号66,400部作成し、市内約65,000世帯に配布した。 ・市制施行50周年記念式典をはじめ各記念事業を実施した。また、キャッチフレーズ「むさしのフロントあさか」のロゴやキャラクター「ぼぼたん」のイラストの一般使用を開始し、「ぼぼたん」の各種イベント参加による市のPR事業を行った。 ・大会組織委員会・東京都・埼玉県等が開催する関係会議へ出席した。 ・「朝霞市オリンピック・パラリンピック競技大会支援実行委員会」を組織し、関係団体及び庁内とのネットワークを整備した。 ・大会組織委員会が推奨する参画プログラムの認証事業等、機運醸成のための事業を実施した。				
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	広報の音声翻訳や講演会での手話通訳・要約筆記等アクセシビリティに配慮した情報発信を行った。			
	子育てが しやすいまち	ツイッター・フェイスブック等子育て世代が取得しやすい媒体での情報発信やオリンピアンとの触れ合う機会の提供等、子育て世代が暮らしやすく、子どもたちの夢が育まれるような事業を実施した。			
	つながりのある 元気なまち	コミュニケーション活動に必要となる市政情報発信や市制施行50周年記念事業及びオリンピック・パラリンピック競技大会関連事業の実施によりコミュニケーション活動が活性化するような意識の醸成を行った。			
	自然・環境に 恵まれたまち	市制施行50周年記念映像の製作や市制施行50周年記念事業及びオリンピック・パラリンピック競技大会関連事業の実施により、市独自の文化や魅力等まちの魅力を発信した。			
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度
		98,451	106,209	—	—
		H32年度			

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 市制施行50周年記念事業 計画の策定と実施 (説明) 市民や事業者と一体となった組織体制により事業計画を策定し、必要に応じ内容を見直す。		計画策定 事業実施	事業実施			平成30年度 事業終了
		計画策定 事業実施	事業実施	—	—	—
② オリンピック・パラリンピック 関連事業計画の策定と進 捲管理 (説明) 市民や事業者と一体となった組織体制により事業計画を策定し、必要に応じ内容を見直す。		計画策定 事業実施	事業実施	事業実施	事業実施	事業実施
		計画策定 事業実施	計画見直し 事業実施	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・広報事業については、発行部数・配布部数の目標を概ね達成することができた。 ・シティ・プロモーション事業については、当初計画していた市制施行50周年記念事業を実施し、市民の皆さんとともに記念すべき節目の年をお祝いすることができた。また、市のPRや情報発信として、広報やホームページ、SNSの活用に加え、マスコミ各社にも多く取り上げられ、周知活動における目標は達成した。さらに50周年を契機に発表したキャッチフレーズやキャラクターは、今後のシティ・プロモーションへとつながるツールとして確立し、新しい歴史の第一歩を踏み出すことができた。 ・オリンピック・パラリンピック事業については、大会や射撃競技に関連したイベントを実施し、大会参画への機会提供や機運醸成を行った。加えて、朝霞市オリンピック・パラリンピック競技大会支援実行委員会を組織し、官民一体となった体制づくりを行った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・行政情報の提供については、施策を推進するため、また、市民との情報共有のために欠かすことができないことに加え、年々多様化する情報を様々な広報媒体を活用してお知らせすることで、市民が本来受けるべきサービスの機会を逸しないように努める必要がある。 ・将来の人口減少への対応と市内在住者の郷土愛の醸成、市外に対する市の認知度向上のため、市制施行50周年を契機としたシティ・プロモーションを進めていく必要がある。 ・オリンピック・パラリンピック事業については、大会受け入れ準備とそれに伴ったシティ・プロモーションの推進が機運の高まりとともに、市が関与して実施する必要性が一層高まってくる。
施策を進める上で問題点・課題	(説明) ・行政情報をより効果的に発信する方法がないか、市民に有益な情報をいかにわかりやすく掲載できるかを市民ニーズの把握に努めながら調査・研究する必要がある。 ・広報あさかを市内全戸配布する方法を事業者によるポスティング以外の方法がないか、調査・研究していく。 ・平成30年度からは市制施行50周年記念事業で発表したツールを活用したシティ・プロモーションへと移行するため、市の魅力の発信について更なる工夫が必要となる。 ・大会準備の方向性が未確定な部分が多い中で、市の魅力が伝わるおもてなしの方策とパラリンピック開催会場市として求められるハード整備の方針等を整備する必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し																																												
	(説明) ・広報事業について、今後も広報や市ホームページ、各種冊子などの広報媒体を効果的に活用し、市政に関する様々な情報をわかりやすく発信していく。また、行政情報をより効果的に発信する方法がないか、市民ニーズの把握に努めながら調査・研究していく。 ・オリンピック・パラリンピック事業について、ハード・ソフト両事業を実施する中で、市として大会をどう支援していくか計画を策定し、官民一体となって準備を加速していく。																																												
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大																																												
	(説明) ・市政モニター等市民の意見を踏まえつつ、シティ・プロモーションを展開していく。 ・官民それぞれの持つ能力や特色を生かし、相互に協力しながらオリンピック・パラリンピック競技大会を支援していく。																																												
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 広報事業</td> <td>24,838</td> <td>17,345</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 広報あさか発行事業</td> <td>50,940</td> <td>57,443</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 市制施行50周年記念事業</td> <td>17,692</td> <td>22,642</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>H29で休止・廃止・終了</td> </tr> <tr> <td>4 オリンピック・パラリンピック事業</td> <td>4,981</td> <td>8,779</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>98,451</td> <td>106,209</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 広報事業	24,838	17,345	4	4	現状のまま	2 広報あさか発行事業	50,940	57,443	4	4	現状のまま	3 市制施行50周年記念事業	17,692	22,642	5	4	H29で休止・廃止・終了	4 オリンピック・パラリンピック事業	4,981	8,779	5	5	拡大	5						計 (単位:千円)	98,451	106,209	—	—	—
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																					
	H28決算	H29決算見込																																											
1 広報事業	24,838	17,345	4	4	現状のまま																																								
2 広報あさか発行事業	50,940	57,443	4	4	現状のまま																																								
3 市制施行50周年記念事業	17,692	22,642	5	4	H29で休止・廃止・終了																																								
4 オリンピック・パラリンピック事業	4,981	8,779	5	5	拡大																																								
5																																													
計 (単位:千円)	98,451	106,209	—	—	—																																								
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【朝霞市オリンピック・パラリンピック競技大会支援実行委員会】朝霞市の特性をいかしたおもてなしと大会及び射撃競技の周知や情報発信を行いながら機運を醸成するとともに、大会を契機とした共生社会の実現を目指す取組を展開していく。</p> <p>【外部評価委員会】・公共施設の整備については、今後増えると考えられる外国人市民や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催時の外国人訪問者にも対応したユニバーサルデザインを意識して進めてほしい。・防災に関する情報の発信について、常に、新しい情報を、適時適切に行うため、ネットで配信するシステムを充実させるなどさらに工夫をしてほしい。(安全・安心なまちに関する所見より抜粋)・シティ・セールスについては、朝霞の長所や強みを丁寧に育てていってほしい。また、まち歩きコースを設定するなど、市外の人に朝霞市を知らせる機会を作ってほしい。(自然・環境に恵まれたまちに関する所見より抜粋)</p>																																												
部長の意見	市制施行50周年記念事業を通じて生まれた価値や再確認された市の魅力を浸透させ、さらなるシティ・プロモーションを進めていくためには、市内外への効果的な情報発信に取り組むことが重要と考えている。キャッチフレーズやキャラクター等シティ・プロモーションツールの新たな展開を研究するとともに、2年後に迫るオリンピック・パラリンピック競技大会の支援準備と併せて、市の認知度向上を図る。																																												